

intra-mart ベースモジュール Ver 2.2.0
インストールガイド

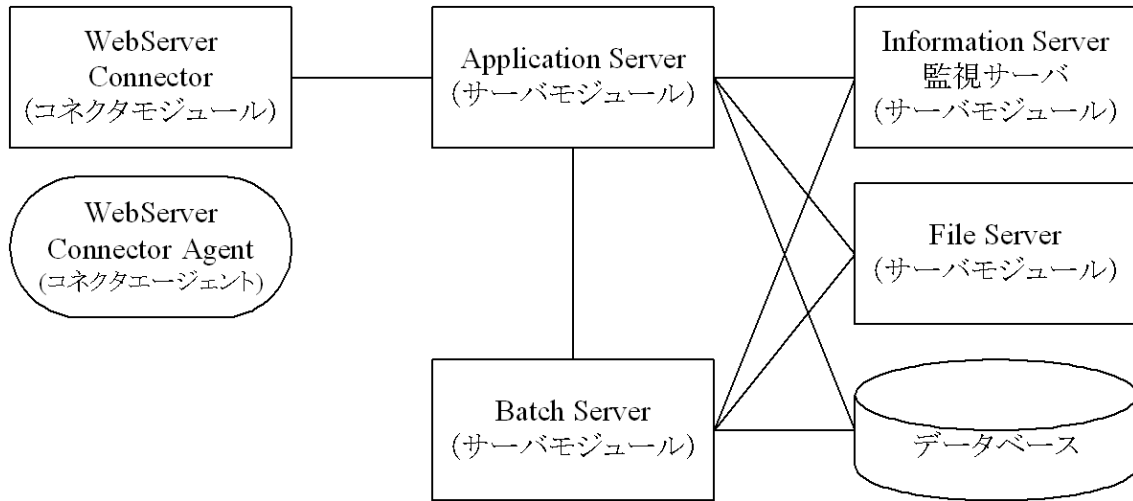
1	<u>システム構成</u>	6
1.1	<u>BaseModule Ver 2.0.x から BaseModule Ver 2.2.x への変更点</u>	7
1.2	<u>データベースの使用について</u>	8
2	<u>インストール手順</u>	10
2.1	<u>サーバ構成図作成</u>	10
2.2	<u>RDB のインストール</u>	10
2.3	<u>RDB 接続ドライバのインストール</u>	10
2.4	<u>Java ランタイムのインストール</u>	10
2.5	<u>WebServer のインストール</u>	10
2.6	<u>intra-mart ベースモジュール Ver2.2.0 のインストール</u>	11
2.7	<u>WebServerConnector の登録</u>	11
2.8	<u>サーバの起動</u>	11
2.9	<u>intra-mart へのログイン</u>	12
2.10	<u>データベースへの接続</u>	12
2.11	<u>サンプルデータの投入</u>	12
3	<u>インストールの前に</u>	13
3.1	<u>サーバ構成</u>	13
3.1.1	<u>サーバ構成図</u>	13
3.1.2	<u>マシンスペックにおけるインストールについて</u>	13
3.2	<u>Oracle 接続 ドライバのインストール</u>	13
3.2.1	<u>Oracle JDBC ドライバのインストール</u>	13
3.2.2	<u>Oracle ODBC ドライバのインストール</u>	14

3.3	MS-SQL サーバ ODBC ドライバのインストール	14
3.4	DB2 JDBC ドライバのインストール	14
3.5	Java ランタイムのインストール	15
3.5.1	Solaris 版 Java ランタイム をインストールする時の注意点	15
3.6	Web Server のインストール	16
4	ベースモジュール Ver 2.2.0 のインストール	17
4.1	インストーラーの起動と操作	17
4.2	インストールディレクトリ構成	18
4.2.1	Web サーバコネクタ ディレクトリ構成	18
4.2.2	AppServer ディレクトリ構成	19
4.2.3	InfoServer ディレクトリ構成	19
4.2.4	BatchServer ディレクトリ構成	19
4.2.5	FileServer ディレクトリ構成	20
4.2.6	intra-mart Frame Work モジュールディレクトリ構成	20
4.3	運用マシン構成とインストール	21
4.3.1	マシン構成 1	22
4.3.2	マシン構成 2	24
4.3.3	マシン構成 3	26
4.3.4	マシン構成 4	28
4.3.5	マシン構成 5	30
4.3.6	マシン構成 6	32
4.3.7	マシン構成 7	35
4.3.8	マシン構成 8	38
4.3.9	マシン構成 9	42
4.3.10	その他のマシン構成	48
5	WebServerの設定	49
5.1	WebConnector (CGI 版) の設定	49
5.1.1	IIS4.0 の場合	49
5.1.2	IIS5.0 の場合	52

5.1.3	Apache 1.3.19 の場合	55
5.2	WebConnector (Servlet 版) の設定	56
5.2.1	iPlanet 4.1 の場合	56
5.2.2	iPlanet4.1+Tomcat3.2	62
5.2.3	Apache1.3.19+Tomcat3.2 の場合	68
5.2.4	IBM HTTP Server 3.5 + IBM WebSphere 3.5 の場合	72
6	imart.conf の設定項目	77
7	imart.ini の設定項目	79
8	起動と停止	91
8.1	コマンドプロンプトで動作させる場合	91
8.1.1	java.exe コマンドのオプション	91
8.1.2	InfoSever の起動 (コマンドプロンプトから)	92
8.1.3	FileSever の起動 (コマンドプロンプトから)	92
8.1.4	AppServer の起動 (コマンドプロンプトから)	93
8.1.5	BatchServer の起動 (コマンドプロンプトから)	93
8.1.6	WebConnectorAgent の起動 (コマンドプロンプトから)	94
8.1.7	Windows NT のサーバ起動メニュー	94
8.2	NT サービスとして動作させる場合	95
8.2.1	サーバモジュールのサービス化	95
8.2.2	コネクタエージェントのサービス化	96
8.3	デーモンとして動作させる場合	97
8.3.1	AppServer のデーモン化	98
8.3.2	InfoServer のデーモン化	99
8.3.3	FileServer のデーモン化	100
8.3.4	BatchServer のデーモン化	101
8.3.5	WebConnectorAgent のデーモン化	102
8.4	管理ツール intra-mart Administrator の利用	103
8.4.1	intra-mart Administrator の起動 (コマンドプロンプトから)	103
8.4.2	intra-mart Administrator のからの Java 起動オプション設定	104

8.5	intra-mart へのログイン	105
8.6	データベースへの接続方法	107
8.6.1	Oracle を JDBC 経由での接続	107
8.6.2	MS-SQL Server、Oracle を ODBC 経由での接続	109
8.6.3	IBM DB2 を JDBC 経由での接続	110
8.7	注意事項	111
9	サンプルデータの投入	112
10	ベースモジュール ver2.1.x の ver2.2 へのデータ移行について	113
11	アンインストール	117
11.1	コマンドプロンプトで動作させている場合	117
11.2	サービスとして動作させている場合	117
12	付録 A intra-mart システム管理シート	118
13	付録 B インストールトラブルシューティング	121

1 システム構成



ベースモジュール Ver2.2(以下 BMv2)は5つのサーバモジュール、1つのコネクタモジュール、1つのコネクタエージェントから構成されています。サーバモジュールはそれぞれ別のマシンにインストールすることができます。

また、コネクタモジュールをインストールするとコネクタエージェントも同時にインストールされます。

* 詳しくはマニュアルをご覧ください。

n サーバモジュール (Java ランタイム上で動作します。)

- intra-mart Application Server (以下 AppServer)
- intra-mart Information Server (以下 InfoServer)
- intra-mart Batch Server (以下 BatchServer)
- intra-mart File Server (以下 FileServer)
- 監視サーバ(InfoServer 起動時に InfoServer 内部に起動されます。)

n コネクタモジュール (WebServer 上で、Servlet または CGI として動作します。)

- WebServer Connector (以下 WebConnector)

n コネクタエージェント (Java ランタイム上で動作します。)

- WebServer Connector Agent (以下 WebConnectorAgent)

WebConnector を CGI 版で運用する場合に必要です。

intra-mart Administrator から、WebConnector の設定(imart.conf)を編集する場合には必要となります。intra-mart Administrator から編集しない場合は必要ありません。

Servlet 版では必要ありません。Servlet に同じ機能が搭載されています。

n intra-mart FrameWork モジュール (以下 Frame Work Module)

- ベースモジュールが動作するために必要なコンテンツ群(システム設定画面など)です。
- InfoServerと同じ場所にインストールする必要があります。

n 管理ツール

- **intra-mart Administrator (Java ランタイム上で動作します。)**

コネクタモジュール、サーバモジュールの運用管理を行うツールです。

サーバモジュールの起動、停止、設定、コネクタモジュールの設定などができます。

また、コネクタモジュール、サーバモジュールを運用しているコンピュータ以外から、リモートで運用管理を行うことができます。

- **intra-mart ServiceManeger (Windows 版のみ)**

サーバモジュール、コネクタエージェントを Windows サービスとして、登録、起動、停止を行うツールです。

Windows にインストールする場合、同時にインストールされます。

なお、intra-mart 開発支援ツールである intra-mart eBuider の試用版が CD-ROM ¥ebuilder に入っております。ぜひ、お試し下さい。

1.1 BaseModule Ver 2.0.x から BaseModule Ver 2.2.x への変更点

- Intra-mart Ver 2.0.x では、各サーバモジュールを起動時に Java の起動オプション(-cp, -Xms, -Xmx など)を設定していただいていたましたが、Ver 2.2.x からは、imart.ini に記述していただくことになりました。

● 前提条件

* 詳しくはリリースノートをご覧ください。

OS	WindowsNT4.0 sp6 Windows2000 sp1 Solaris 2.6 および 7 Linux カーネル 2.2
Java ランタイム	SUN JRE version 1.3.0 (国際化版) SUN Java2 SDK Enterprise Edition version 1.2.1
Web Server	IIS4.0 IIS5.0 iPlanet4.1 iPlanet4.1+Tomcat3.2 Apache 1.3.19 Apache 1.3.19+Tomcat3.2 IBM HTTP Server 3.5+IBM WebSphere 3.5 いずれか 1 つ
Data Base	Oracle version 7.3.4 以上 SQL Server version 7.0 sp2 (WindowsNT のみ) IBM DB2 Universal Database いずれか 1 つ
Oracle 接続ドライバ (Oracle を使用する場合のみ)	Oracle jdbc driver(version 8.1.6)
SQL Server 接続ドライバ (SQL Server 使用する場合のみ)	SQL Server odbc driver(version 3.70.08.20) (WindowsNT のみ)
DB2 接続ドライバ	DB2 jdbc driver(version 7.1)

以上がインストールされていること。

(WebServer は、WebConnector をインストールするマシンにのみインストールしてください。)

BMv2 はデータベースを使用しなくても動作可能ですが、一般的に業務では、データベースと連動させながら、運用することが多くなります。

そのことを踏まえ、このインストールガイドでは、データベースの設定方法も合わせて解説しております。

1.2 データベースの使用について

n Oracle データベースを使用する場合

Oracle jdbc driver(version 8.1.6)をインストールして下さい。

ORACLE ODBC を使用する場合は ODBC のバージョンにより動作が安定しない場合がありますのでご注意下さい。

弊社では、ORACLE805 付属の ODBC ドライバ + ORACLE805 でのみ動作試験をしております。

(注意)oracle をインストールすると、Java ランタイムのバージョンが変わってしまう場合があ

ります。必ず oracle をインストールしたあとに Java ランタイムをインストールして下さい。

n MS-SQL サーバを使用する場合

MS-SQL サーバへは、ODBC 経由で接続します。

弊社では ODBC ドライバは SQL Server3.70.08.20 でのみ動作試験をしております。

n DB2 を使用する場合

DB2 へは、JDBC 経由で接続します。

弊社では JDBC ドライバは DB2 7.1 でのみ動作試験をしております。

2 インストール手順

intra-mart ベースモジュールを運用するにあたって、以下の手順でインストールを行ってください。

なお、一括インストーラーでは、2.4～2.8 までのインストール作業を一括で行うことができます。(Windows 版のみ)

詳しくは別冊のクイックインストールガイドを参照して下さい。

2.1 サーバ構成図作成

インストールを行う前に、運用するサーバ構成図の作成を行ってください。

サーバ構成図の作成には付録 A(118 ページ)の intra-mart システム管理シートをご利用ください。

参照		ページ
3.1	サーバ構成	13
4.3	運用マシン構成とインストール	21～48

2.2 RDB のインストール

RDB をご利用になる場合は、RDB をインストールしてください。

RDB をご利用にならない場合は、インストールの必要はありません。

2.3 RDB 接続ドライバのインストール

RDB をご利用になる場合は、RDB 接続ドライバをインストールしてください。

RDB をご利用にならない場合は、インストールの必要はありません。

RDB	参照	ページ
Oracle	3.2 Oracle 接続ドライバのインストール	13
MS-SQL サーバ	3.3 MS-SQL サーバ ODBC ドライバのインストール	14
DB2	3.4 DB2 JDBC ドライバのインストール	14

2.4 Java ランタイムのインストール

intra-mart を運用するすべてのコンピュータにインストールします。

参照		ページ
3.5	Java ランタイムのインストール	15

2.5 WebServer のインストール

WebServer として運用するコンピュータにインストールします。

参照		ページ
3.6	WebServer のインストール	16

2.6 intra-mart ベースモジュール Ver2.2.0 のインストール

サーバ構成にしたがって、ベースモジュールのインストールを行ってください。

参照		ページ
4.1	インストーラーの起動と操作	17
4.3	運用マシン構成とインストール	21

2.7 WebServerConnector の登録

WebServerConnector を WebServer に登録します。

- CGI を利用する

参照		ページ
5.1.1	IIS 4.0	49
5.1.2	IIS 5.0	52
5.1.3	Apache 1.3.19	55

- Servlet を利用する

参照		ページ
5.2.1	iPlanet 4.1	56
5.2.2	iPlanet 4.1+Tomcat3.2	62
5.2.3	Apache 1.3.19+Tomcat3.2	68
5.2.4	IBM HTTP Server 3.5 + IBM WebSphere 3.5	72

2.8 サーバの起動

- コマンドプロンプトから起動する場合

参照		ページ
8.1	コマンドプロンプトで動作させる場合	91

起動確認はコマンドプロンプトから行うことをお勧めします。

正常に動作することを確認できた後で、サービス、デーモンなどにしましょう。

- NT サービスとして起動する場合「Windows NT 用」

参照		ページ
8.2	NT サービスとして動作させる場合	95

- デーモンとして起動する場合「Solaris、Linux 用」

参照		ページ
8.3	デーモンとして動作させる場合	97

2.9 intra-mart へのログイン

ブラウザ起動し、intra-mart の URL へアクセスします。

初期データインポート後に master/master でログインします。

参照		ページ
8.5	intra-mart へのログイン	105

2.10 データベースへの接続

ブラウザから intra-mart のメニュー 「システム設定」-「データベース」を選択し、データベースの接続設定を行います。

RDB を使用しない場合は、行う必要はありません。

参照		ページ
8.6	データベースへの接続方法	107

2.11 サンプルデータの投入

intra-mart のサンプルデータの投入を行います。

サンプルデータはRDB の使用が前提となっています。

参照		ページ
9	サンプルデータの投入	112

3 インストールの前に

3.1 サーバ構成

3.1.1 サーバ構成図

インストール前にサーバ構成図を作成することをお勧めします。

サーバ構成図には、マシンの IP アドレス、各サーバモジュールのポート番号を明記します。

サーバ構成図を作成することで、インストールを簡単に行うことができます。

サーバ構成図は 4.3 マシン構成を参考にしてください。

3.1.2 マシンスペックにおけるインストールについて

- n OS が Windows で AppServer を運用するマシンが CPU を 2 台以上搭載
 - AppServer を 2 つ以上起動しラウンドロビンしてください。CPU を有効に活用することができます。
- n OS が Solaris、Linux で AppServer を運用するマシンが CPU を 2 台以上搭載
 - JRE Version1.3.0 の場合は、自動的に CPU を有効に活用します。
 - JRE Version1.2.x の場合は、AppServer を 2 つ以上起動しラウンドロビンしてください。CPU を有効に活用することができます。

3.2 Oracle 接続 ドライバのインストール

- BMV2 で Oracle を使用する場合はインストールが必要です。
- AppServer または BatchServer をインストールするマシンすべてにインストールします。
- Oracle 接続 ドライバは、ODBC、JDBC の 2 つから選択できます。
- ODBC は WindowsNT のみで使用可能です。

3.2.1 Oracle JDBC ドライバのインストール

oracle jdbc driver(version 8.1.6) は、日本オラクルのサイトから配布されております。

<http://www.oracle.co.jp/download/jdbcodbc/index.html> からダウンロードできます

AppServer または BatchServer をインストールするコンピュータすべてにインストールします。すでにインストールされている場合は、行う必要はありません。

ダウンロードしたファイルから oracle jdbc driver(version 8.1.6) をインストールしてください。

詳しくは、Oracle のサイトを参照してください。

3.2.2 Oracle ODBC ドライバのインストール

1. Oracle インストーラーから OracleClient をインストールしてください。
詳しくは、Oracle のマニュアルを参照してください。
2. Oracle の Net8 Easy Config で、ネットサービスを登録してください。
3. 「コントロールパネル」 - 「ODBC データソース」を選択してください。
4. ODBC データソースのシステム DSN に2で設定したネットサービスを ODBC として登録してください。

3.3 MS-SQL サーバ ODBC ドライバのインストール

- **BMv2 で MS-SQL サーバを使用する場合は設定が必要です。**
1. 「コントロールパネル」 - 「ODBC データソース」を選択してください。
 2. ODBC データソースのシステム DSN に MS-SQL サーバを新規追加します。

詳細は MS-SQL サーバのマニュアルを参照してください。

3.4 DB2 JDBC ドライバのインストール

1. DB2 インストーラーから DB2 管理クライアントをインストールしてください。
2. クライアント構成アシスタントから DB2 を登録します。

詳細は DB2 のマニュアルを参照してください。

3.5 Java ランタイムのインストール

Java ランタイムはサン・マイクロシステムズ社のサイトから配布されております。

Java ランタイム	ダウンロードサイト
JRE Version 1.3.0	http://java.sun.com/j2se/1.3/ja/jre/
J2EE Version 1.2.1	http://java.sun.com/j2ee/j2sdkee/

- n サーバモジュールをインストールするコンピュータすべてにインストールします。
 - n コネクタモジュールを CGI 版で運用する場合はコネクタモジュールをインストールするコンピュータにもインストールします。
 - n すでにインストールされている場合は、行う必要はありません。
1. Java ランタイム(Java(TM) 2 Runtime Environment 1.3.0_x)国際化版をダウンロードします。
(Java ランタイムは国際化版をダウンロードしてください。)
 2. ダウンロードした Java ランタイムファイルからインストールを行います。
(詳しくは、サン・マイクロシステムズ社のサイトを参照してください)
 3. コマンドラインに `java -version` と入力し、リターンキーを押します。
 4. コマンドラインにバージョン情報が表示されたら、インストールは成功です。
 5. intra-mart で EJB をご利用になる場合は **J2EE Version 1.2.1** をインストールしてください。

3.5.1 Solaris 版 Java ランタイム をインストールする時の注意点

Solaris 版 Java ランタイムをインストールする場合には注意が必要です。

Solaris 版 Java ランタイムインストール後、パッチを実行する必要があります。

詳細は Java ランタイムをダウンロードしたサイトにある

Download README (ja) 1.3.0_x, Solaris/SPARC

をご覧ください。

3.6 Web Server のインストール

WebServer として運用するコンピュータのみにインストールします。

WebServer は、

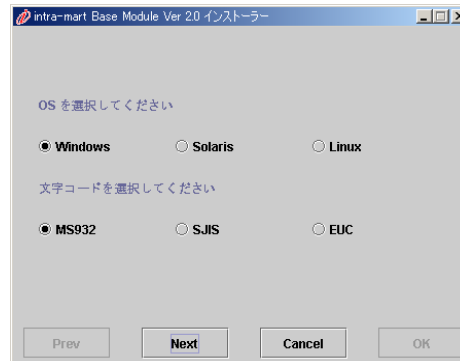
- **IIS4.0 (WindowsNT)**
- **IIS5.0 (WindowsNT)**
- **iPlanet4.1 (WindowsNT Solaris, Linux)**
- **iPlanet4.1 + Tomcat3.2 (WindowsNT, Solaris, Linux)**
- **Apache1.3.19 (WindowsNT Solaris, Linux)**
- **Apache1.3.19 +Tomcat3.2 (WindowsNT, Solaris, Linux)**
- **IBM HTTP Server 3.5 + IBM WebSphere 3.5**

のいずれか 1 つを選択できます。

各 WebServer のマニュアル等をご覧になり、適切にインストールしてください。

4 ベースモジュール Ver 2.2.0 のインストール

4.1 インストーラーの起動と操作



インストーラーの起動および操作は以下のように行います。

n Windows NT の場合

1. java.exe コマンドにパスが通っていることを確認します。
2. エクスプローラで BMv2 の CD-ROM があるディレクトリに移動します。
3. basemodule¥install ディレクトリへ移動します。
4. **setup.bat** をダブルクリックし起動します。
5. インストーラーの画面が表示されます。
6. 画面の設定項目を設定して、Next ボタンを押します。以下同様
7. 最後に設定項目一覧が表示されます。その設定でよろしければ OK ボタンを押します。
(間違っていた場合は、Prev ボタンで戻り、設定し直してください)
8. インストールが開始されます。

n Solaris 、Linux の場合

1. java.exe コマンドにパスが通っていることを確認します。
2. コンソール画面で BMv2 の CD-ROM があるディレクトリに移動します。
3. basemodule/install ディレクトリへ移動します。
4. コンソールから **java -cp ./setup.jar setup** と入力します。
5. インストーラーの画面が表示されます。
6. 画面の設定項目を設定して、Next ボタンを押します。以下同様
7. 最後に設定項目一覧が表示されます。その設定でよろしければ OK ボタンを押します。
(間違っていた場合は、Prev ボタンで戻り、設定し直してください)
8. インストールが開始されます。

なお、Solaris Linux では Xwindow が起動しているマシンでインストールする場合だけ、インストーラーのウィンドウが表示されます。

Xwindow が起動していない場合、コンソールでの対話形式でインストールを行います。

4.2 インストールディレクトリ構成

Web サーバ コネクタをインストールしたパスを% web_path%

アプリケーションをインストールしたパスを% im_path%

(AppServer、InfoServer、BatchServer、FileServer、Frame Work Module をインストールしたパス)

とした場合の、インストールディレクトリ構成について説明します。

4.2.1 Web サーバコネクタ ディレクトリ構成

% web_path%

alert	警告ページ格納フォルダ
apilist	API リスト格納フォルダ
applet	アプレット格納フォルダ
conf	Web サーバコネクタ設定ファイル格納フォルダ
csjs	クライアントサイド JavaScript 格納フォルダ
css	カスケードスタイルシート格納フォルダ
gif	イメージファイル格納フォルダ (Ver 1.x 互換用)
img	イメージファイル格納フォルダ
license	ライセンスページ格納フォルダ
log	ログファイル出力フォルダ
WEB-INF	Web サーバコネクタ (servlet)
imart.jar	intra-mart サーバモジュール 共通ランタイム ファイル
intramart.exe	Web サーバコネクタ (CGI)

4.2.2 AppServer ディレクトリ構成

% im_path%	
im art.jar	intra-m art サーバモジュール 共通ランタイム ファイル
im art.ini	サーバモジュール 共通初期設定ファイル
log	intra-m art ログ出力フォルダ (初期起動時に作成されます)
tmp	intra-m art テンポラリフォルダ (初期起動時に作成されます)
treadure	intra-m art データ格納フォルダ (初期起動時に作成されます)

4.2.3 InfoServer ディレクトリ構成

% im_path%	
im art.jar	intra-m art サーバモジュール 共通ランタイム ファイル
im art.ini	サーバモジュール 共通初期設定ファイル
log	intra-m art ログ出力フォルダ (初期起動時に作成されます)
tmp	intra-m art テンポラリフォルダ (初期起動時に作成されます)
treadure	intra-m art データ格納フォルダ (初期起動時に作成されます)

4.2.4 BatchServer ディレクトリ構成

% im_path%	
im art.jar	intra-m art サーバモジュール 共通ランタイム ファイル
im art.ini	サーバモジュール 共通初期設定ファイル
log	intra-m art ログ出力フォルダ (初期起動時に作成されます)
treadure	intra-m art データ格納フォルダ (初期起動時に作成されます)

4.2.5 FileServer ディレクトリ構成

% im_path%	
imart.jar	intra-mart サーバモジュール 共通ランタイム ファイル
imart.ini	サーバモジュール 共通初期設定ファイル
log	intra-mart ログ出力フォルダ (初期起動時に作成されます)
tmp	intra-mart テンポラリフォルダ (初期起動時に作成されます)
treadure	intra-mart データ格納フォルダ (初期起動時に作成されます)

4.2.6 intra-mart Frame Work モジュールディレクトリ構成

% im_path%	
common	共通ページ格納フォルダ (Ver 1.x 互換用)
library	オープンソース格納フォルダ
masterm	汎用マスタページ格納フォルダ (Ver 1.x 互換用)
sample	サンプルページ格納フォルダ
system	システム設定ページ格納フォルダ
unit	UNIT 格納フォルダ
workflow	ワークフローモジュール格納フォルダ
batch.js	バッチ起動スクリプトファイル
foundation.fco	基本モジュールファイル
init.js	初期起動スクリプトファイル
main.html	初回表示ページファイル
main.js	初回表示ページスクリプトファイル
session.js	セッション毎に実行されるスクリプトファイル

4.3 運用マシン構成とインストール

BM v2 は、さまざまなマシン構成で運用することができます。

いくつかのマシン構成を例にとり、インストール手順を説明します。

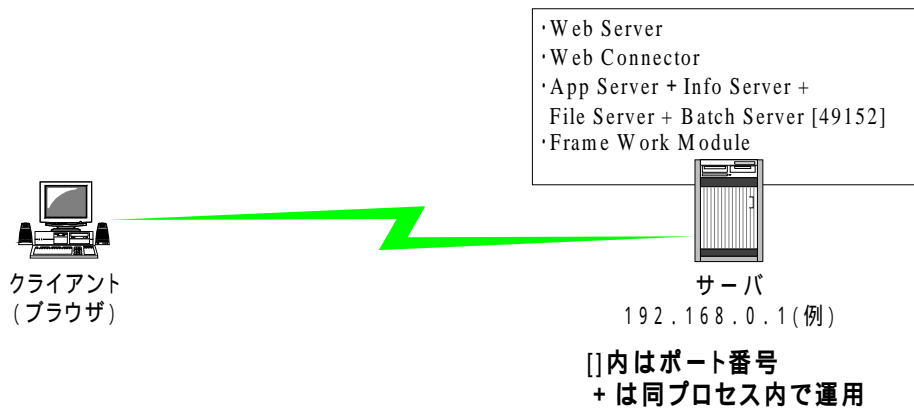
なお、例は OS が WindowsNT、文字コードが SJIS で説明しています。

他の OS にインストールする場合は、OS と文字コードの選択で OS に合わせて選択してください。

4.3.1 マシン構成 1

サーバを1台で運用する。

- AppServer、InfoServer、FileServer、BatchServerを同じプロセス内で運用します。
- サーバにすべてのサーバモジュール 及び Frame Work Module をインストールします。



4.3.1.1 BM v2 のインストール

1. インストーラーを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラーの起動と操作を参照)
2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください(1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	y
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	y
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	y
ファイルサーバのインストール(y/n)?	y
パッチサーバのインストール(y/n)?	y
intra-mart フレームワーク モジュールのインストール(y/n)?	y
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
Web サーバ コネクタをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%web_path%と表現します)
アプリケーションをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.1 または localhost
Info Server のポート番号を入力してください?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.1 または localhost
File Server のポート番号を入力してください?	49149
Batch Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.1 または localhost
Batch Server のポート番号を入力してください?	49151
App Server のポート番号を入力してください?	49152
各サーバをネットワーク経由で運用する?	n
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

なお、Web サーバ コネクタをインストールするパスとアプリケーションをインストールするパスは同じで問題はありませんが、別のディレクトリにインストールすることをお勧めします。

インフォメーションサーバをインストールする場合は、合わせて Frame Work

Module もインストールする必要があります。

4.3.1.2 WebServer の設定

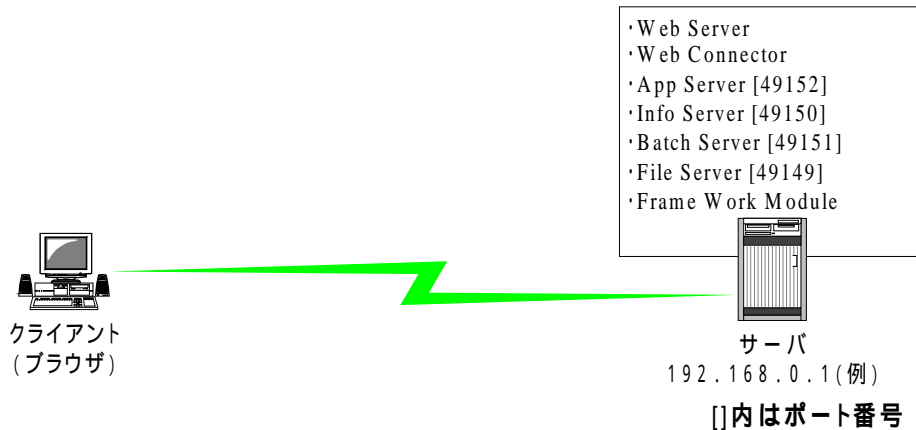
WebServer を IIS4.0、IIS5.0、Apache1.3.19 を選択した場合、「5.1 WebConnector(CGI 版) の設定」を行って下さい。

iPlanet4.1、iPlanet4.1+Tomcat3.2、Apache1.3.19+Tomcat3.2、IBM HTTP Server 3.5 + IBM WebSphere 3.5 を選択した場合、「5.2 WebConnector(Servlet 版) の設定」を行って下さい。

4.3.2 マシン構成 2

サーバを1台で運用する。

- すべてのサーバモジュールを別プロセスで運用します。
- 1 台のサーバにすべてのモジュールをインストールします。



4.3.2.1 BM v2 のインストール

1. インストーラーを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラーの起動と操作を参照)
2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください(1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	y
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	y
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	y
ファイルサーバのインストール(y/n)?	y
パッチサーバのインストール(y/n)?	y
intra-mart フレームワーク モジュールのインストール(y/n)?	y
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
Web サーバ コネクタをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%web_path%と表現します)
アプリケーションをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.1 または localhost
Info Server のポート番号を入力してください?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.1 または localhost
File Server のポート番号を入力してください?	49149
Batch Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.1 または localhost
Batch Server のポート番号を入力してください?	49151
App Server のポート番号を入力してください?	49152
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

なお、Web サーバ コネクタをインストールするパスとアプリケーションをインストールするパスは同じで問題はありませんが、別のディレクトリにインストールすることをお勧めします。

インフォメーションサーバをインストールする場合は、合わせて Frame Work Module もインストールする必要があります。

4.3.2.2 WebServer の設定

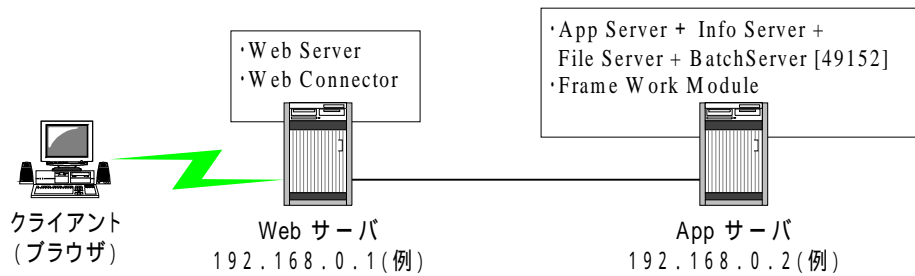
WebServer を IIS4.0、IIS5.0、Apache1.3.19 を選択した場合、「5.1 WebConnector(CGI 版) の設定」を行って下さい。

iPlanet4.1、iPlanet4.1+Tomcat3.2、Apache1.3.19+Tomcat3.2、IBM HTTP Server 3.5 + IBM WebSphere 3.5 を選択した場合、「5.2 WebConnector(Servlet 版) の設定」を行って下さい。

4.3.3 マシン構成 3

サーバを2台で運用する。

- AppServer、InfoServer、FileServer、BatchServerを同プロセス内で運用します。
- WebサーバにWebConnectorをインストールします。
- Appサーバにすべてのサーバモジュール及びFrame Work Moduleをインストールします。



[]内はポート番号
+ は同プロセス内で運用

4.3.3.1 BM v2 のインストール

n Webサーバへのインストール

- WebConnectorをインストールします。
1. インストーラーを起動します。(詳しくは4.1 インストーラーの起動と操作を参照)
 2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例はWindowsで説明しています。)

手順	入力
OSを選択してください(1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Webサーバコネクタのインストール(y/n)?	y
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	n
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
バッチサーバのインストール(y/n)?	n
intra-mart Administratorのインストール(y/n)?	n
Webサーバコネクタをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%web_path%と表現します)
Info Serverを運用するコンピュータのIPアドレスを入力してください?	192.168.0.2
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

n App サーバへのインストール

- **すべてのサーバモジュール 及び Frame Work Module をインストールします。**
- 1. インストーラーを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラーの起動と操作を参照)
- 2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください(1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	y
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	y
ファイルサーバのインストール(y/n)?	y
パッチサーバのインストール(y/n)?	y
intra-mart フレームワーク モジュールのインストール(y/n)?	y
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.2 または localhost
Info Server のポート番号を入力してください?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.2 または localhost
File Server のポート番号を入力してください?	49149
Batch Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.2 または localhost
Batch Server のポート番号を入力してください?	49151
App Server のポート番号を入力してください?	49152
各サーバをネットワーク経由で運用する?	n
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

インフォメーションサーバをインストールする場合は、合わせて Frame Work Module もインストールする必要があります。

4.3.3.2 WebServer の設定

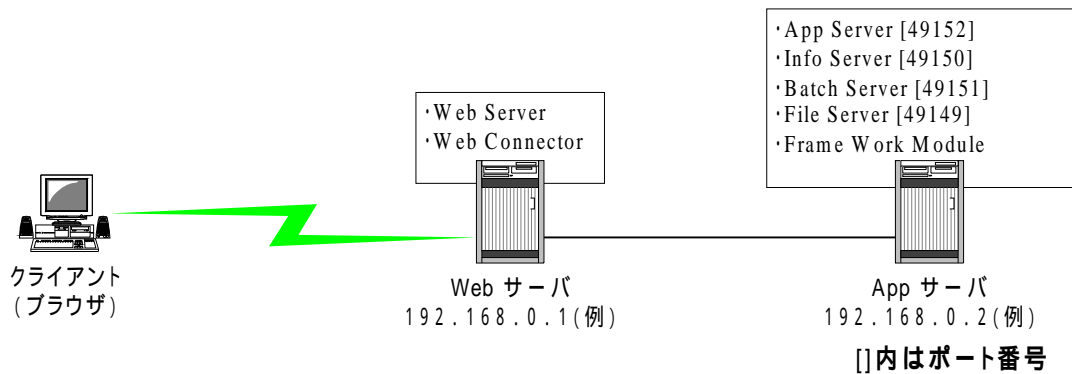
WebServer を IIS4.0、IIS5.0、Apache1.3.19 を選択した場合、「5.1 WebConnector(CGI 版) の設定」を行って下さい。

iPlanet4.1、iPlanet4.1+Tomcat3.2、Apache1.3.19+Tomcat3.2、IBM HTTP Server 3.5 + IBM WebSphere 3.5 を選択した場合、「5.2 WebConnector(Servlet 版) の設定」を行って下さい。

4.3.4 マシン構成 4

サーバを2台で運用する。

- Web サーバに WebConnector をインストールします。
- App サーバにすべてのサーバモジュール 及び Frame Work Module をインストールします。



4.3.4.1 BM v2 のインストール

n Web サーバへのインストール

- WebConnector をインストールします。
1. インストーラーを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラーの起動と操作を参照)
 2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください(1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	y
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	n
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
バッチサーバのインストール(y/n)?	n
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	n
Web サーバ コネクタをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%web_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.2
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

n App サーバへのインストール

- **すべてのサーバモジュール 及び Frame Work Module をインストールします。**
1. インストーラーを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラーの起動と操作を参照)
 2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください(1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	y
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	y
ファイルサーバのインストール(y/n)?	y
パッチサーバのインストール(y/n)?	y
intra-mart フレームワーク モジュールのインストール(y/n)??	y
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.2 または localhost
Info Server のポート番号を入力してください?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.2 または localhost
File Server のポート番号を入力してください?	49149
Batch Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.2 または localhost
Batch Server のポート番号を入力してください?	49151
App Server のポート番号を入力してください?	49152
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

インフォメーションサーバをインストールする場合は、合わせて Frame Work Module もインストールする必要があります。

4.3.4.2 WebServer の設定

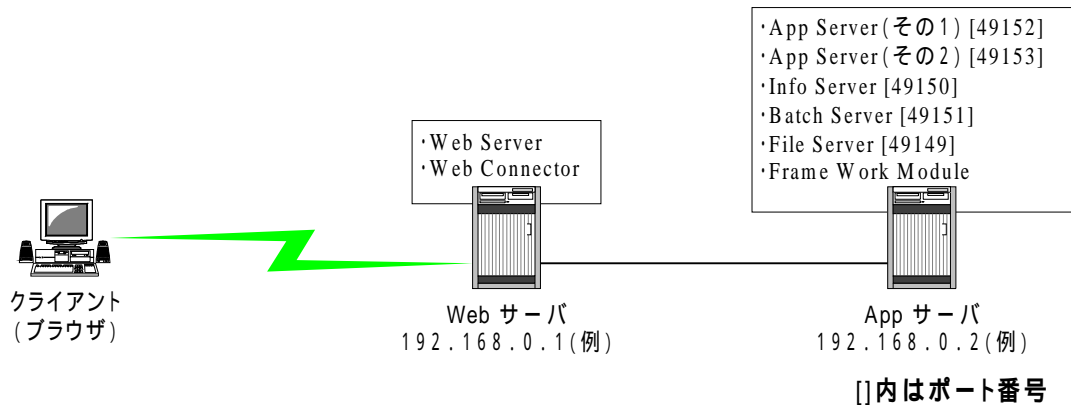
WebServer を IIS4.0、IIS5.0、Apache1.3.19 を選択した場合、「5.1 WebConnector(CGI 版) の設定」を行って下さい。

iPlanet4.1、iPlanet4.1+Tomcat3.2、Apache1.3.19+Tomcat3.2、IBM HTTP Server 3.5 + IBM WebSphere 3.5 を選択した場合、「5.2 WebConnector(Servlet 版) の設定」を行って下さい。

4.3.5 マシン構成 5

サーバを2台で運用する。

- Web サーバに WebConnector をインストールします。
- App サーバにすべてのサーバモジュール 及び Frame Work Module をインストールします。
- App サーバで AppServer のラウンドロビンを行います。



4.3.5.1 BM v2 のインストール

n Web サーバへのインストール

- WebConnector をインストールします。
1. インストーラーを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラーの起動と操作を参照)
 2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください(1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	y
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	n
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
バッチサーバのインストール(y/n)?	n
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	n
Web サーバ コネクタをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%web_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.2
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

n App サーバへのインストール

1. インストーラーを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラーの起動と操作を参照)
2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください(1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	y
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	y
ファイルサーバのインストール(y/n)?	y
パッチサーバのインストール(y/n)?	y
intra-mart フレームワーク モジュールのインストール(y/n)??	y
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.2 または localhost
Info Server のポート番号を入力してください?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.2 または localhost
File Server のポート番号を入力してください?	49149
Batch Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.2 または localhost
Batch Server のポート番号を入力してください?	49151
App Server のポート番号を入力してください?	49152,49153
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

インフォメーションサーバをインストールする場合は、合わせて Frame Work Module もインストールする必要があります。

4.3.5.2 WebServer の設定

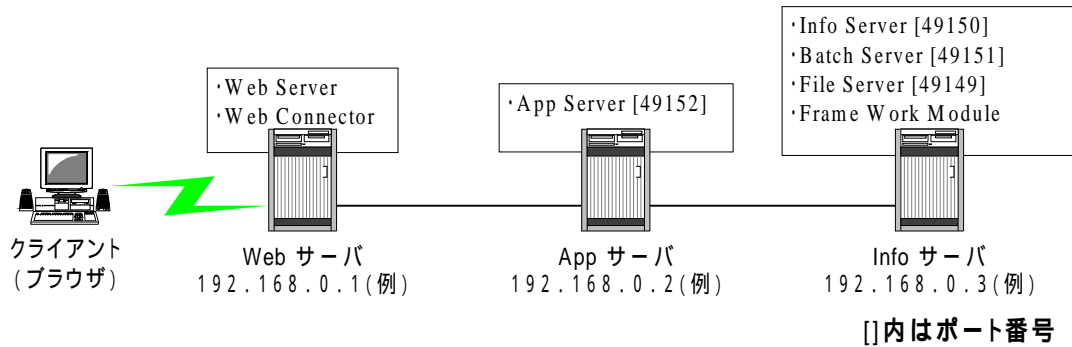
WebServer を IIS4.0、IIS5.0、Apache1.3.19 を選択した場合、「5.1 WebConnector(CGI 版) の設定」を行って下さい。

iPlanet4.1、iPlanet4.1+Tomcat3.2、Apache1.3.19+Tomcat3.2、IBM HTTP Server 3.5 + IBM WebSphere 3.5 を選択した場合、「5.2 WebConnector(Servlet 版) の設定」を行って下さい。

4.3.6 マシン構成 6

サーバを3台で運用する。

- Web サーバに WebConnector をインストールします。
- App サーバに AppServer(サーバモジュール)をインストールします。
- Info サーバ に InfoServer、BatchServer、FileServer 及び Frame Work Module をインストールします。



4.3.6.1 BM v2 のインストール

n Web サーバへのインストール

- WebConnector をインストールします。
1. インストーラーを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラーの起動と操作を参照)
 2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください(1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	y
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	n
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
パッチサーバのインストール(y/n)?	n
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	n
Web サーバ コネクタをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%web_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.3
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

n App サーバへのインストール

- AppServer をインストールします。

1. インストーラーを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラーの起動と操作を参照)
2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください(1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	y
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
パッチサーバのインストール(y/n)?	n
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.3
Info Server のポート番号を入力してください?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.3
File Server のポート番号を入力してください?	49149
Batch Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.3
Batch Server のポート番号を入力してください?	49151
App Server のポート番号を入力してください?	49152
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

n Info サーバへのインストール

- InfoServer、BatchServer、FileServer 及び Frame Work Module をインストールします。

1. インストーラーを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラーの起動と操作を参照)
2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください(1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	n
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	y
ファイルサーバのインストール(y/n)?	y
パッチサーバのインストール(y/n)?	y
intra-mart フレームワーク モジュールのインストール(y/n)?	y
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.3 または localhost
Info Server のポート番号を入力してください?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.3 または localhost
File Server のポート番号を入力してください?	49149
Batch Server のポート番号を入力してください?	49151
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

インフォメーションサーバをインストールする場合は、合わせて Frame Work Module もインストールする必要があります。

4.3.6.2 WebServer の設定

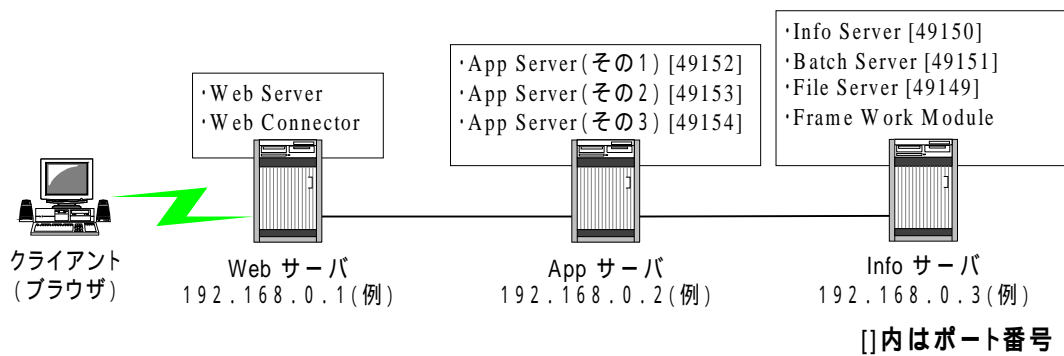
WebServer を IIS4.0、IIS5.0、Apache1.3.19 を選択した場合、「5.1 WebConnector(CGI 版) の設定」を行って下さい。

iPlanet4.1、iPlanet4.1+Tomcat3.2、Apache1.3.19+Tomcat3.2、IBM HTTP Server 3.5 + IBM WebSphere 3.5 を選択した場合、「5.2 WebConnector(Servlet 版) の設定」を行って下さい。

4.3.7 マシン構成 7

サーバを3台で運用する。

- Web サーバに WebConnector をインストールします。
- App サーバに AppServer(その1、その2、その3)をインストールします。
- App サーバでラウンドロビンを行います。
- Info サーバ に InfoServer、BatchServer、FileServer 及び Frame Work Module をインストールします。



4.3.7.1 BM v2 のインストール

n Web サーバへのインストール

- WebConnector をインストールします。
1. インストーラーを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラーの起動と操作を参照)
 2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください(1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	y
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	n
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
バッチサーバのインストール(y/n)?	n
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	n
Web サーバ コネクタをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%web_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.3
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

n App サーバへのインストール

- AppServer(その1)、AppServer(その2)、AppServer(その3)をインストールします。

1. インストーラーを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラーの起動と操作を参照)
2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください(1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	y
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
パッチサーバのインストール(y/n)?	n
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.3
Info Server のポート番号を入力してください?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.3
File Server のポート番号を入力してください?	49149
Batch Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.3
Batch Server のポート番号を入力してください?	49151
App Server のポート番号を入力してください?	49152,49153,49154
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

n Info サーバへのインストール

- InfoServer、BatchServer、FileServer 及び Frame Work Module をインストールします。

1. インストーラーを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラーの起動と操作を参照)
2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください(1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	n
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	y
ファイルサーバのインストール(y/n)?	y
パッチサーバのインストール(y/n)?	y
intra-mart フレームワーク モジュールのインストール(y/n)?	y
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.3 または localhost
Info Server のポート番号を入力してください?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.3 または localhost
File Server のポート番号を入力してください?	49149
Batch Server のポート番号を入力してください?	49151
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

インフォメーションサーバをインストールする場合は、合わせて Frame Work Module もインストールする必要があります。

4.3.7.2 WebServer の設定

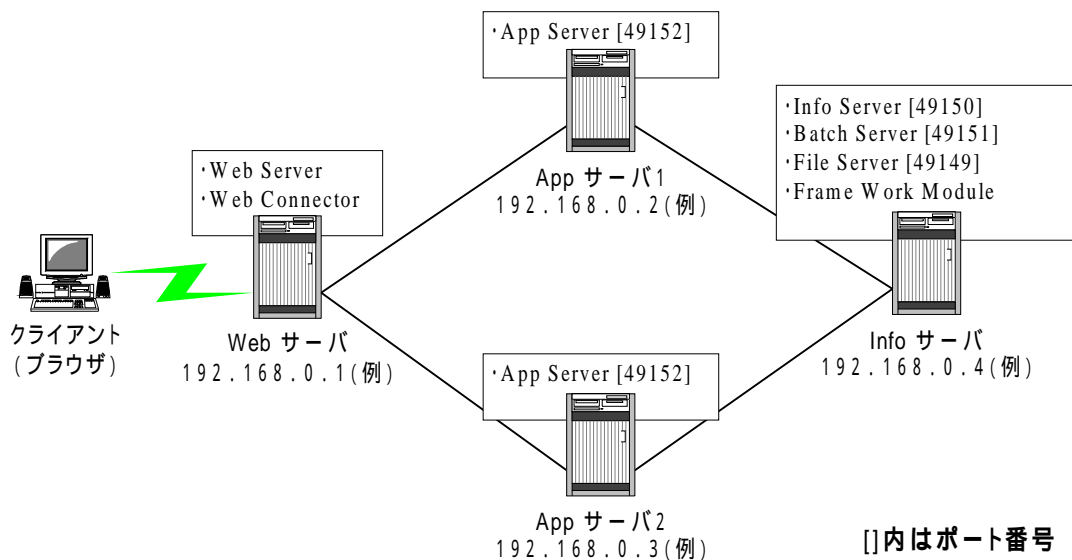
WebServer を IIS4.0、IIS5.0、Apache1.3.19 を選択した場合、「5.1 WebConnector(CGI 版) の設定」を行って下さい。

iPlanet4.1、iPlanet4.1+Tomcat3.2、Apache1.3.19+Tomcat3.2、IBM HTTP Server 3.5 + IBM WebSphere 3.5 を選択した場合、「5.2 WebConnector(Servlet 版) の設定」を行って下さい。

4.3.8 マシン構成 8

サーバを4台で運用する。

- Web サーバに WebConnector をインストールします。
- App サーバ1と App サーバ2にそれぞれ AppServer をインストールします。
- App サーバ1、App サーバ2でラウンドロビンを行います。
- Info サーバ に InfoServer、BatchServer、FileServer 及び Frame Work Module をインストールします。



4.3.8.1 BM v2 のインストール

n Web サーバへのインストール

- WebConnector をインストールします。
1. インストーラーを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラーの起動と操作を参照)
 2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください(1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	y
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	n
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
パッチサーバのインストール(y/n)?	n
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	n
Web サーバ コネクタをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%web_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.4
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

n App サーバ1へのインストール

• AppServer をインストールします。

1. インストーラーを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラーの起動と操作を参照)
2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください(1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	y
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
パッチサーバのインストール(y/n)?	n
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.4
Info Server のポート番号を入力してください?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.4
File Server のポート番号を入力してください?	49149
Batch Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.4
Batch Server のポート番号を入力してください?	49151
App Server のポート番号を入力してください?	49152
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

n App サーバ2 へのインストール

- AppServer をインストールします。

1. インストーラーを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラーの起動と操作を参照)
2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください(1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	y
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
パッチサーバのインストール(y/n)?	n
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.4
Info Server のポート番号を入力してください?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.4
File Server のポート番号を入力してください?	49149
Batch Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.4
Batch Server のポート番号を入力してください?	49151
App Server のポート番号を入力してください?	49152
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

n Info サーバへのインストール

InfoServer、BatchServer、FileServer 及び Frame Work Module をインストールします。

1. インストーラーを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラーの起動と操作を参照)
2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください(1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	n
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	y
ファイルサーバのインストール(y/n)?	y
パッチサーバのインストール(y/n)?	y
intra-mart フレームワーク モジュールのインストール(y/n)?	y
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.4 または localhost
Info Server のポート番号を入力してください?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.4 または localhost
File Server のポート番号を入力してください?	49149
Batch Server のポート番号を入力してください?	49151
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

インフォメーションサーバをインストールする場合は、合わせて Frame Work Module もインストールする必要があります。

4.3.8.2 WebServer の設定

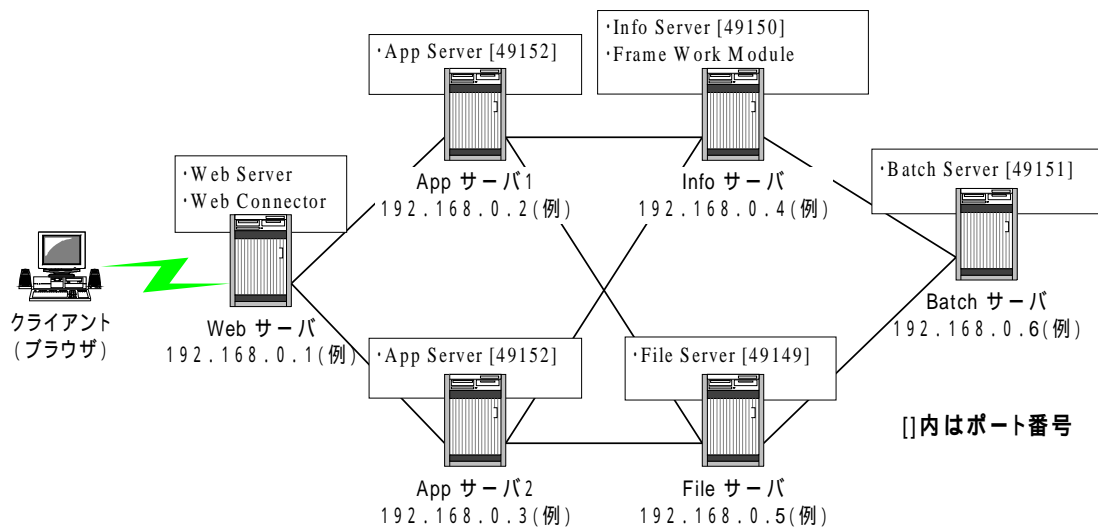
WebServer を IIS4.0、IIS5.0、Apache1.3.19 を選択した場合、「5.1 WebConnector(CGI 版) の設定」を行って下さい。

iPlanet4.1、iPlanet4.1+Tomcat3.2、Apache1.3.19+Tomcat3.2、IBM HTTP Server 3.5 + IBM WebSphere 3.5 を選択した場合、「5.2 WebConnector(Servlet 版) の設定」を行って下さい。

4.3.9 マシン構成 9

サーバを6台で運用する。

- Web サーバに WebConnector をインストールします。
- App サーバ1と App サーバ2にそれぞれ AppServer をインストールします。
- App サーバ1、App サーバ2でラウンドロビンを行います。
- Info サーバ に InfoServer 及び Frame Work Module をインストールします。
- File サーバ に FileServer をインストールします。
- Batch サーバ に BatchServer をインストールします。



4.3.9.1 BM v2 のインストール

n Web サーバへのインストール

- WebConnector をインストールします。
1. インストーラーを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラーの起動と操作を参照)
 2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください(1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	y
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	n
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
パッチサーバのインストール(y/n)?	n
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	n
Web サーバ コネクタをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%web_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.4
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

n App サーバ1へのインストール

• AppServer をインストールします。

1. インストーラーを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラーの起動と操作を参照)
2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください(1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	y
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
パッチサーバのインストール(y/n)?	n
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.4
Info Server のポート番号を入力してください?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.5
File Server のポート番号を入力してください?	49149
Batch Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.6
Batch Server のポート番号を入力してください?	49151
App Server のポート番号を入力してください?	49152
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

n App サーバ2 へのインストール

• AppServer をインストールします。

1. インストーラーを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラーの起動と操作を参照)
2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください(1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	y
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
パッチサーバのインストール(y/n)?	n
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.4
Info Server のポート番号を入力してください?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.5
File Server のポート番号を入力してください?	49149
Batch Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.6
Batch Server のポート番号を入力してください?	49151
App Server のポート番号を入力してください?	49152
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

n Info サーバへのインストール

InfoServer 及び Frame Work Module をインストールします。

1. インストーラーを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラーの起動と操作を参照)
2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください(1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	n
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	y
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
パッチサーバのインストール(y/n)?	n
intra-mart フレームワーク モジュールのインストール(y/n)??	y
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server のポート番号を入力してください?	49150
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

インフォメーションサーバをインストールする場合は、合わせて Frame Work Module もインストールする必要があります。

n File サーバへのインストール

FileServer をインストールします。

1. インストーラーを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラーの起動と操作を参照)
2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください(1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	n
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	y
パッチサーバのインストール(y/n)?	n
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
File Server のポート番号を入力してください?	49149
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

n Batch サーバへのインストール

BatchServer をインストールします。

1. インストーラーを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラーの起動と操作を参照)
2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください(1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	n
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
パッチサーバのインストール(y/n)?	y
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.4
Info Server のポート番号を入力してください?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.5
File Server のポート番号を入力してください?	49149
Batch Server のポート番号を入力してください?	49151
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

4.3.9.2 WebServer の設定

WebServer を IIS4.0、IIS5.0、Apache1.3.19 を選択した場合、「5.1 WebConnector(CGI 版) の設定」を行って下さい。

iPlanet4.1、iPlanet4.1+Tomcat3.2、Apache1.3.19+Tomcat3.2、IBM HTTP Server 3.5 + IBM WebSphere 3.5 を選択した場合、「5.2 WebConnector(Servlet 版) の設定」を行って下さい。

4.3.10 その他のマシン構成

BM v2 では、各サーバモジュールを各マシンにどのように配置しても運用できるように設計されています。

運用に必要な各サーバモジュールの数は

WebConnector × 1 ~

AppServer × 1 ~

InfoServer × 1

FileServer × 1

BatchServer × 1 (使用しない場合は、インストールの必要はありません。)

です。

運用に最低限必要になる各サーバモジュールの数は

WebConnector × 1

AppServer × 1

InfoServer × 1

FileServer × 1

BatchServer × 1 (使用しない場合は、インストールの必要はありません。)

となります。

上記のマシン構成 1 ~ 8 は、あくまでも運用のマシン構成の例となります。

これ以外のマシン構成でも運用は可能です。

インストールされる前に、マシン構成 1 ~ 8 を参考にしてマシン構成図を作成することをお勧めします。

マシン構成図を作成するポイントは、各マシンの IP アドレスと運用する各サーバモジュールのポート番号を明記することです。

以上の明記があれば、インストールはスムーズに行うことができるでしょう。

5 WebServer の設定

WebServer を BM v2 で利用できるように設定を行います。

5.1 WebConnector(CGI 版)の設定

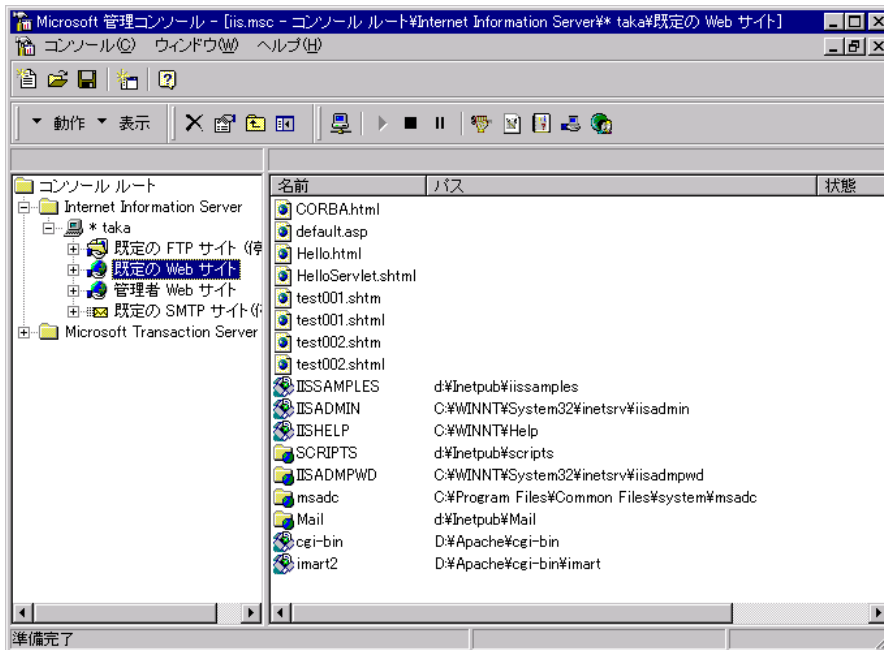
Solaris、Linux の場合は、以下のファイル、ディレクトリに各権限を与えてください。

- intramart.cgi に実行権限を与えてください。
- Log ディレクトリに書き込み権限を与えてください。
- AppServer、InfoServer、BatchServer、FileServer をインストールしたディレクトリに書き込み権限を与えてください。

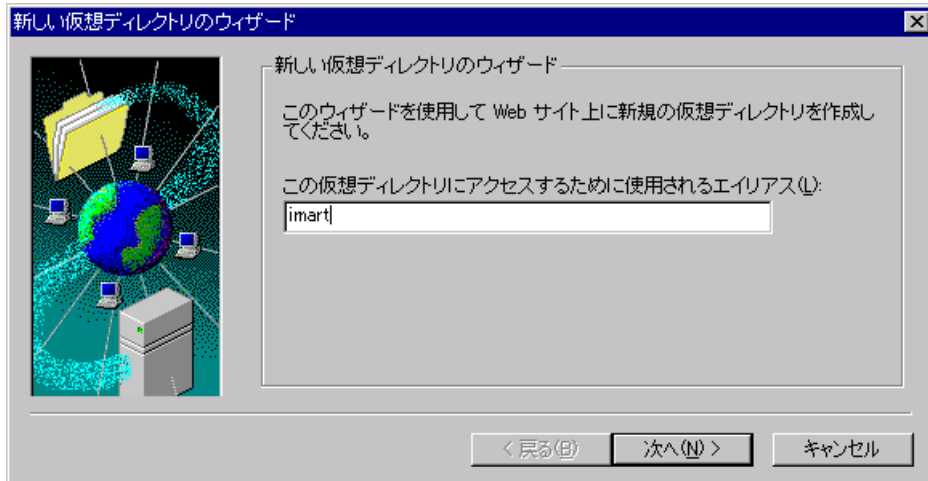
5.1.1 IIS4.0 の場合

n IIS4.0 は WindowsNT のみで利用可能です。

1. インターネットサービスマネージャーを起動します。
2. 既定の Web サイトを右クリックし、[新規作成] [仮想ディレクトリ]を選択します。



3. 仮想ディレクトリ名を入力して次へをクリックして下さい。
*この説明では仮想ディレクトリ名を **imart** とします。
*実際は任意な名称をお付けください。



4. 物理パスに % web_path% を設定し、次へをクリックして下さい。
* %web_path% は **WebConnector** をインストールしたディレクトリです。



5. アクセス権をすべてチェックし、完了をクリックして下さい。

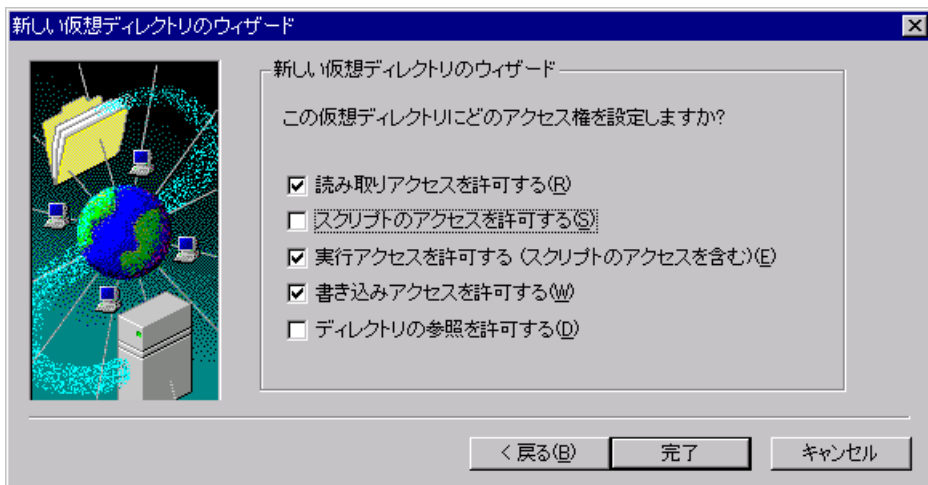
読み取りアクセスを許可する

実行アクセスを許可する

の2つには必ずチェックをつけて下さい。

ログ出力をする場合は、書き込みアクセスを許可するにチェックをつけて下さい。

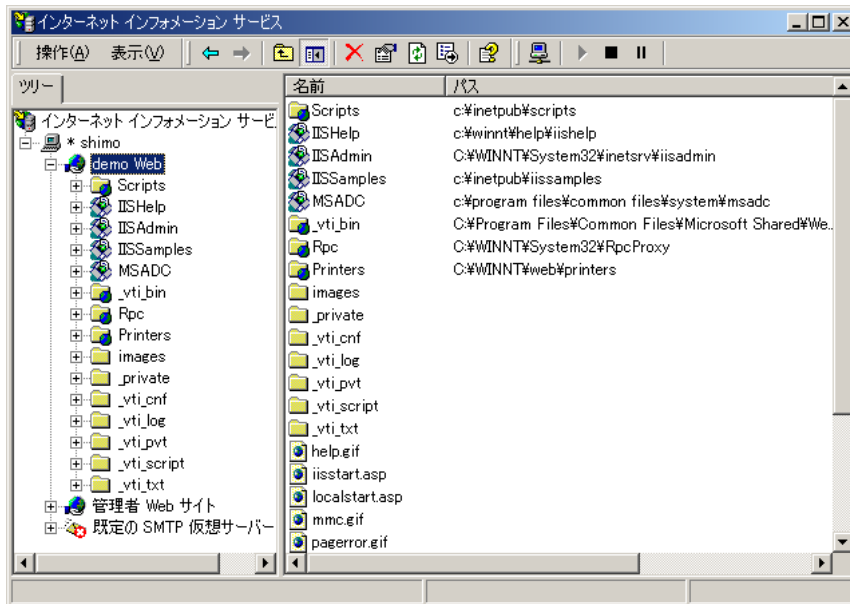
その他は、任意に設定して下さい。



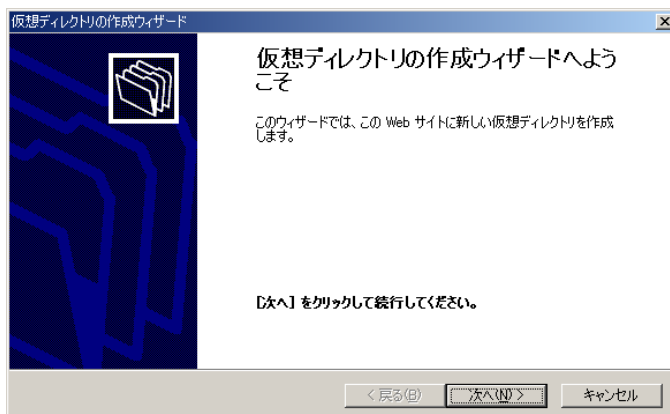
5.1.2 IIS 5.0 の場合

n IIS5.0 は WindowsNT のみで利用可能です。

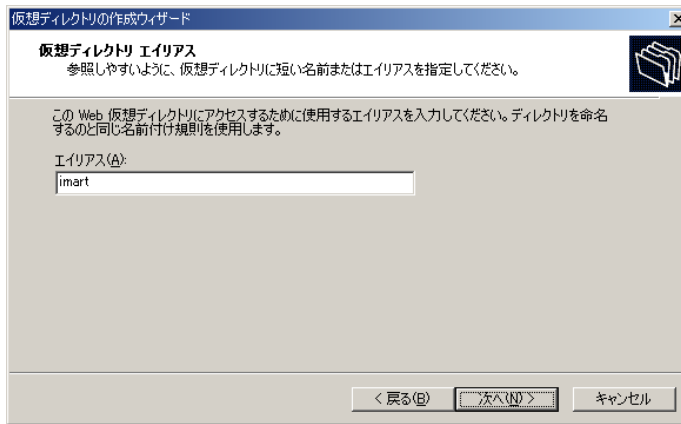
1. インターネットサービスマネージャーを起動します。
2. 仮想ディレクトリを追加するサイトを選択します。



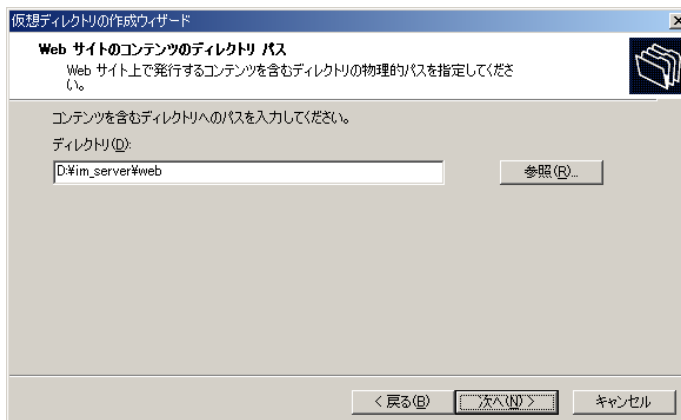
3. 操作メニューの「新規作成」 - 「仮想ディレクトリ」を選択します。
4. 次へをクリックします。



5. 仮想ディレクトリ名を入力し、次へをクリックして下さい。
* この説明では仮想ディレクトリ名を **imart** とします。
* 実際は任意な名称をお付けください。



6. 物理パスに **%web_path%** を設定し、次へをクリックして下さい。
* **%web_path%** は **WebConnector** をインストールしたディレクトリです。



7. アクセス権をすべてチェックし、次へをクリックして下さい。

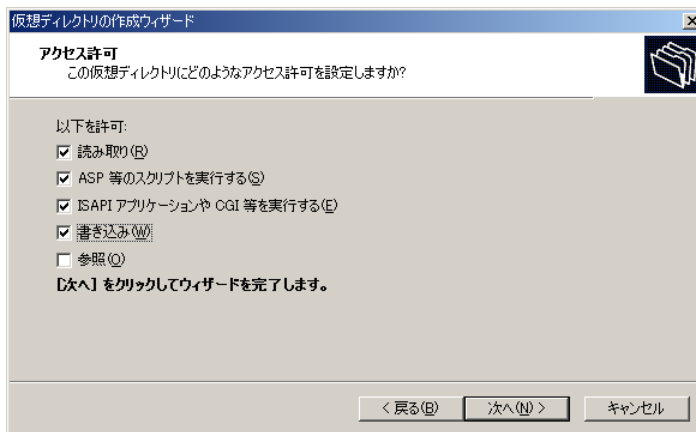
読み取り

ISAP アプリケーションや CGI を実行する。

の2つには必ずチェックをつけて下さい。

ログ出力をする場合は、書き込みにチェックをつけて下さい。

その他は、任意に設定して下さい。



8. 完了をクリックしてください。

5.1.3 Apache 1.3.19の場合

Apache のコンフィグレーションファイル(httpd.conf)に以下を追加して下さい。

***この説明ではエイリアス名を imart として説明しています。**

***%web_path% は WebConnector をインストールしたディレクトリです。**

```
AddHandler cgi-script .cgi
```

```
Alias /imart/ "%web_path%/"
```

```
<Directory "%web_path%/">
```

```
    AllowOverride None
```

```
    Order allow,deny    -->任意に設定して下さい
```

```
    Allow from all      -->任意に設定して下さい
```

```
    Options ExecCGI
```

```
</Directory>
```

5.2 WebConnector(Servlet 版) の設定

- n WebConnector(Servlet 版)は iPlanet、iPlanet+Tomcat、Apache+Tomcat または IBM HTTP Server 3.5 + IBM WebSphere 3.5 で利用できます。

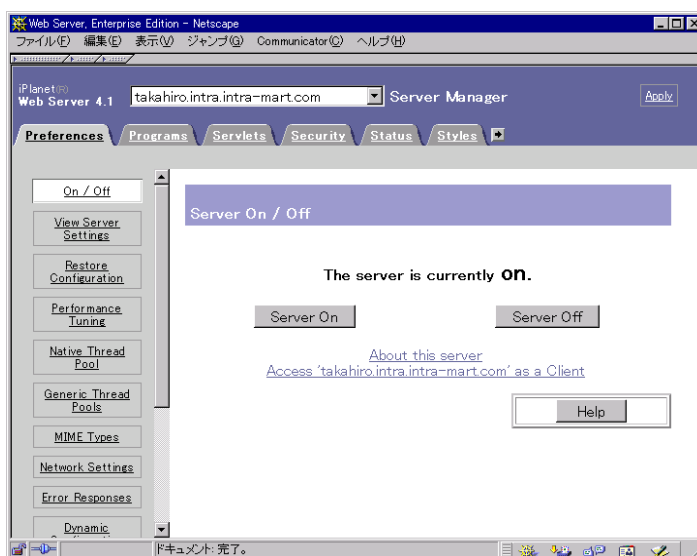
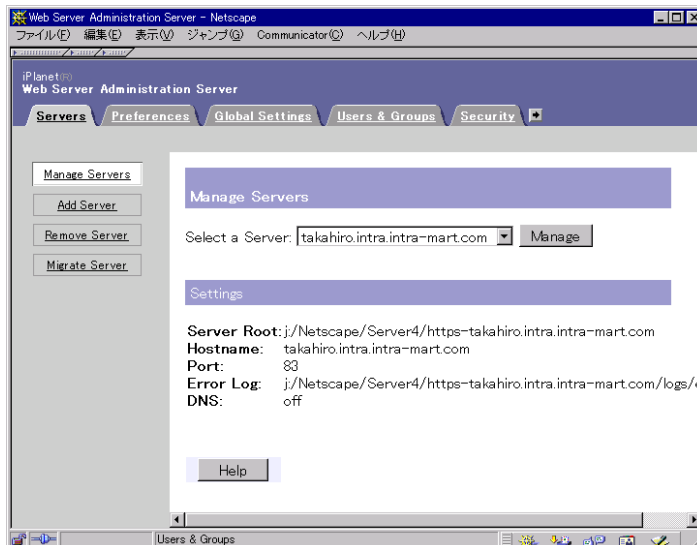
5.2.1 iPlanet 4.1 の場合

- n iPlanet 4.1 での注意点

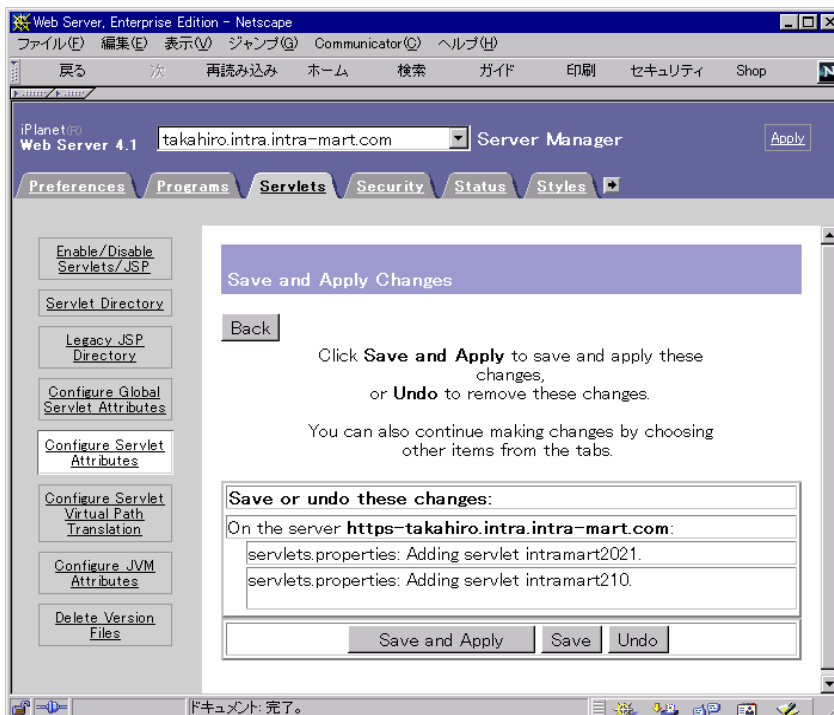
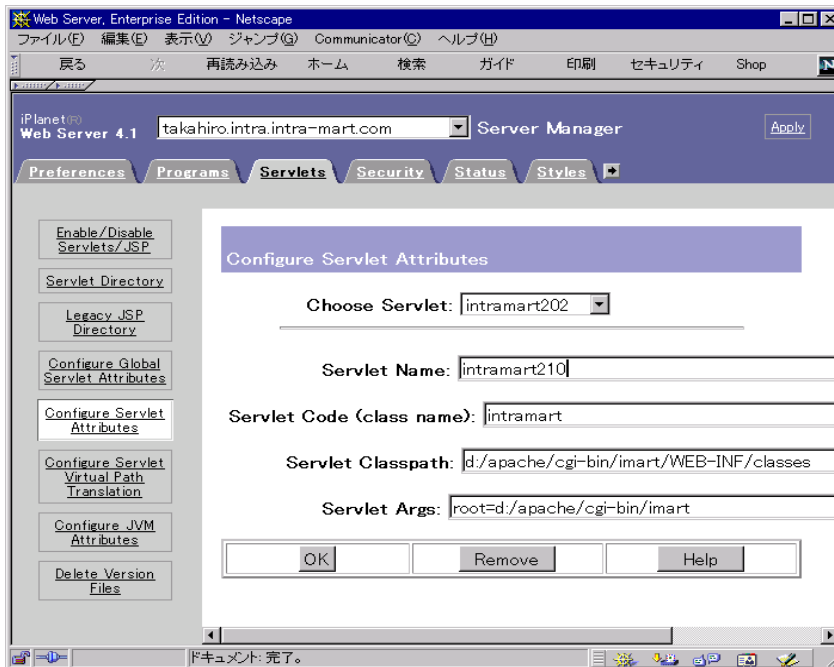
- iPlanet でサーブレット版を利用する場合、ファイルダウンロードにおいて、日本語ファイル名が文字化けを起こします。これは iPlanet での制約となります。

1. iPlanet Administration を起動し、サーバ設定画面に移ります。

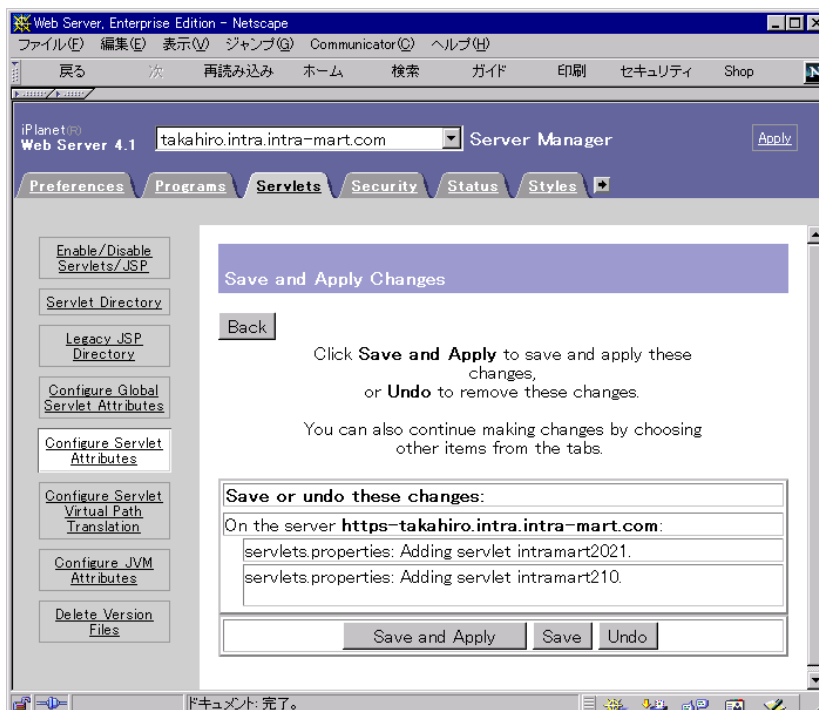
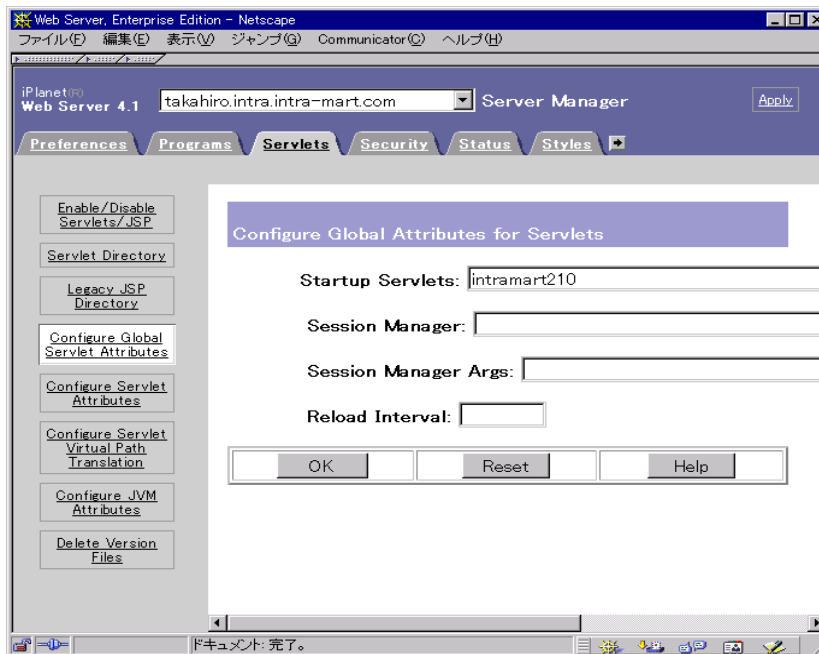
(Select a Server のサーバインスタンス名が表示されている右側の Manage ボタンをクリックします。)



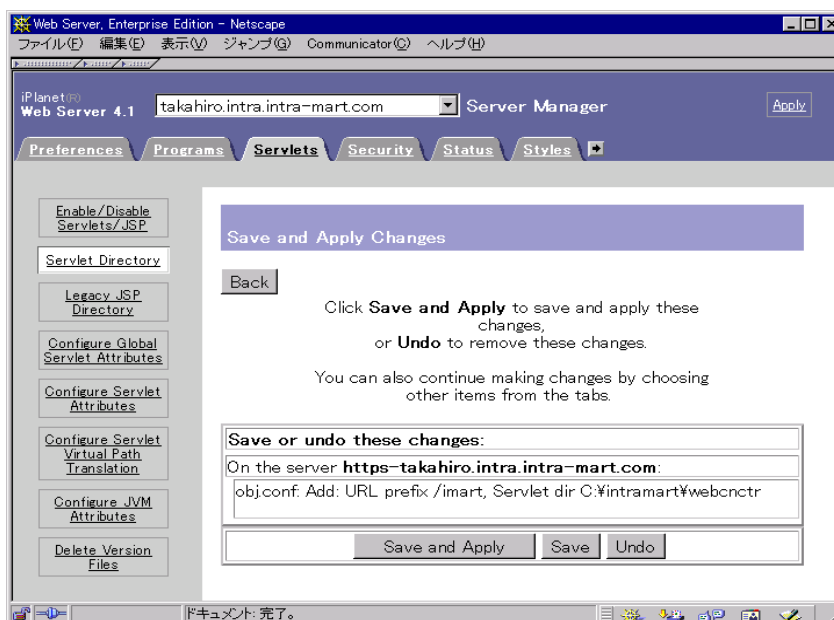
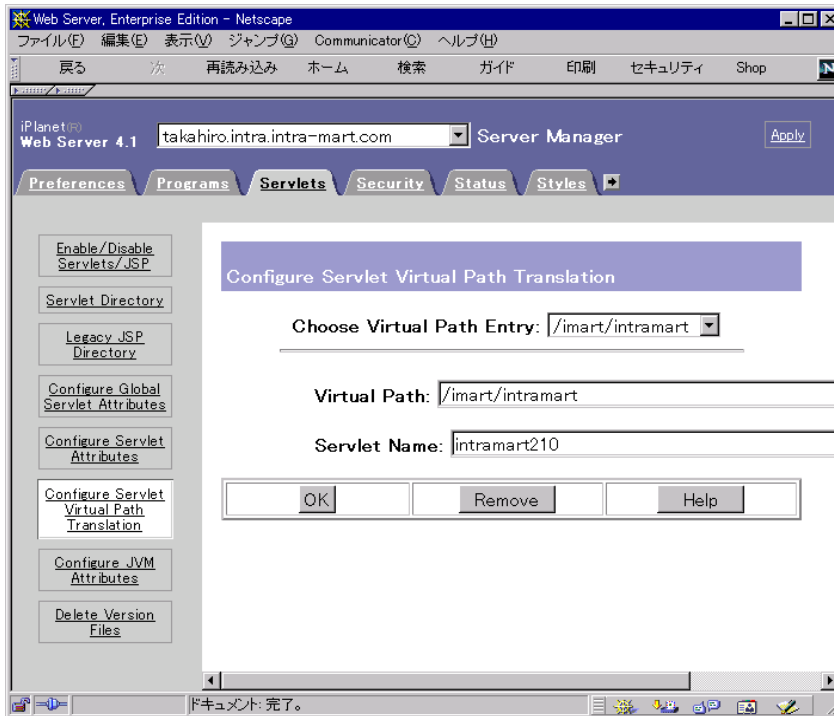
2. 上フレームの[Servlets]タブ、左フレームの[Configure Servlet Attributes]をクリックします。
3. Servlet Name:に 任意の文字列を記述します。
4. Servlet Code (class name):に intramart という文字列を記述します。
5. Servlet Classpath:に % web_path% /WEB-INF/classes を記述します。
6. Servlet Args: に root=% web_path% を記述します。
7. OK ボタンを押し、Save and Apply ボタンを押しします。



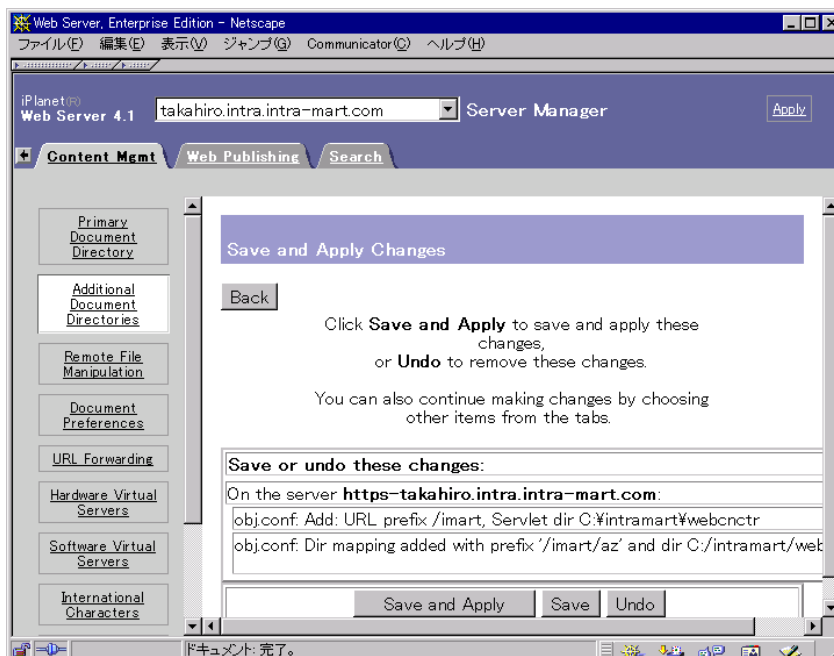
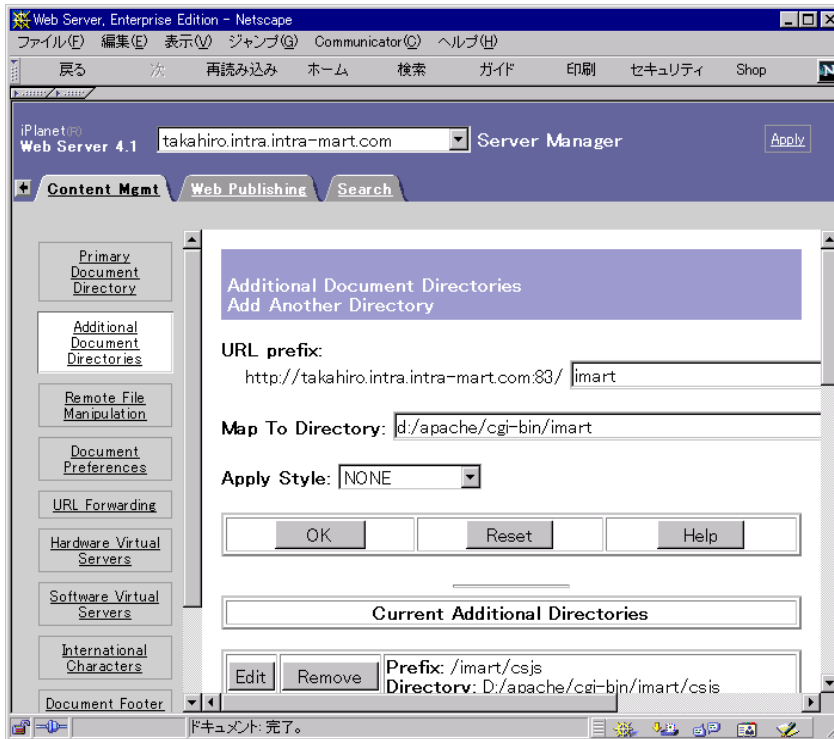
8. 上フレームの[Servlets]タブ、左フレームの[Configure Global Servlet Attributes]をクリックします。
9. Startup Servlets:に上記4.の Servlet Name:に記述したものと同一文字列を記述します。
10. OK ボタンを押し、Save and Apply ボタンを押します。



11. 上フレームの[Servlets]タブ、左フレームの[Configure Servlet Virtual Path Translation]をクリックします。
12. Virtual Path:に /imart/intramart を記述します。
13. Servlet Name:に上記4. の Servlet Name:に記述したものと同一文字列を記述します。
14. OK ボタンを押し、Save and Apply ボタンを押します。

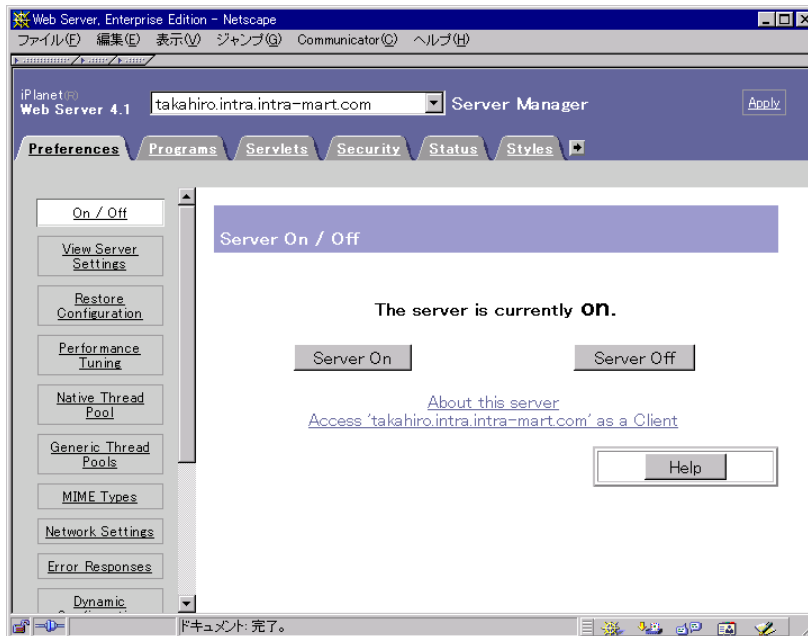


15. 上フレームの[Content Mgmt]タブ、左フレームの[Additional Document Directories]をクリックします。
16. URL prefix: に imart を記述します。
17. Map To Directory: に % web_path% を記述します。
18. OK ボタンを押し、Save and Apply ボタンを押します。



19. iPlanet インスタンスの再起動

上フレームの[Preferences]タブ、左フレームの[On/Off]をクリックし、Server Off Server On と、順にボタンをおして、iPlanet インスタンスを再起動して下さい。



5.2.2 iPlanet4.1+Tomcat3.2

- n iPlanet4.1+Tomcat3.2 は、iPlanet, Tomcat 側で、保証されていません。

実際に運用される場合は、お客様の環境で動作確認をお願いします。

5.2.2.1 接続モジュールの入手

- n iPlanet4.1 と Tomcat3.2 を連携するには、接続モジュールを入手する必要があります。

- n WindowsNT, 2000 の場合

接続モジュールとして nsapi_redirect.dll が必要になります。

http://jakarta.apache.org/builds/jakarta-tomcat/release/v3.2.2/bin/win32/i386/isapi_redirect.dll

から入手できます。2001/05/28 現在

- n Solaris の場合

- 接続モジュールとして nsapi_redirector.so が必要になります。
- 接続モジュールソースファイルを手し、コンパイルして作成する必要があります。
- gcc コマンド make コマンドが使えることが前提になります。

1. JDK1.3 をダウンロードして、インストールします。

(JRE1.3 にはソースコードは存在しません。)

2. Tomcatのソースファイルをダウンロードし、適当なディレクトリに展開します。

<http://jakarta.apache.org/builds/jakarta-tomcat/release/v3.2.2/src/jakarta-tomcat-3.2.2-src.tar.gz>

から入手できます。2001/05/28 現在

3. ここからは以下の環境として説明します。実際は、各環境に合わせてパスを変更してください。

iPlanet インストールパスを /usr/local/iplanet

JDK1.3 をインストールしたパスを /usr/local/jdk1.3

Tomcat のソースファイルを展開したパスを /usr/local/tomcat

4. /usr/local/tomcat/src/native/jk 以下のファイルを /usr/local/tomcat/src/native/netscape 以下にすべてコピーします。

5. /usr/local/tomcat/src/native/netscape のディレクトリに移動します。

6. Makefile ファイルを作成し、以下のコードを記述します。

```
CC_CMD=gcc -DNET_SSL -DSOLARIS -D_REENTRANT
LD_SHARED_CMD=ld -G

all:

prepare:

SUITSPOT_HOME=/usr/local/iplanet/server4/plugins
JAVA_HOME=/usr/local/jdk1.3

OS_TYPE=solaris
INCLUDEDIR=$(SUITSPOT_HOME)/include
JAVA_INCLUDE=$(JAVA_HOME)/include

JK_OBJS = jk_nsapi_plugin.o jk_ajp12_worker.o jk_ajp13_worker.o jk_ajp13.o ¥
jk_lb_worker.o jk_sockbuf.o jk_connect.o jk_map.o jk_msg_buff.o ¥
jk_uri_worker_map.o jk_util.o jk_jni_worker.o ¥
jk_pool.o jk_worker.o

INCLUDE_FLAGS=-I$(INCLUDEDIR) -I$(INCLUDEDIR)/base -I$(INCLUDEDIR)/frame ¥
-I$(JAVA_INCLUDE) -I$(JAVA_INCLUDE)/$(OS_TYPE)

COMMON_DEFS=-DMCC_HTTPD -DXP_UNIX -DSPAPI20 -DSOLARIS -Wall

all: nsapi_redirector.so

nsapi_redirector.so:$(JK_OBJS)
    $(MAKE) prepare
    $(LD_SHARED_CMD) $(JK_OBJS) -o nsapi_redirector.so $(EXTRA_LDDEFINES)

.c.o:
    $(CC_CMD) $(COMMON_DEFS) $(INCLUDE_FLAGS) -c $<

clean:
    rm $(JK_OBJS)
```

7. make コマンドを実行します。
8. nsapi_redirector.so が作成されます。

n Linux の場合

- 接続モジュールとして nsapi_redirector.so が必要になります。
 - 接続モジュールソースファイルを手入し、コンパイルして作成する必要があります。
 - gcc コマンド make コマンドが使えることが前提になります。
1. JDK1.3 をダウンロードして、インストールします。
 2. Tomcat のソースファイルをダウンロードし、適当なディレクトリに展開します。
<http://jakarta.apache.org/builds/jakarta-tomcat/release/v3.2.2/src/jakarta-tomcat-3.2.2-src.tar.gz>
 3. から入手できます。2001/05/28 現在
 4. ここからは以下の環境として説明します。実際は、各環境に合わせてパスを変更してください。
iPlanet インストールパスを /usr/local/iplanet
JDK1.3 をインストールしたパスを /usr/local/jdk1.3
Tomcat のソースファイルを展開したパスを /usr/local/tomcat
 5. /usr/local/tomcat/src/native/jk 以下のファイルを /usr/local/tomcat/src/native/netscape 以下にすべてコピーします。
 6. /usr/local/tomcat/src/native/netscape のディレクトリに移動します。
 7. Makefile ファイルを作成し、以下のコードを記述します。


```
CC_CMD=gcc -DNET_SSL -DLINUX -D_REENTRANT
```

```
LD_SHARED_CMD=ld -G
```

```
all:
```

```
prepare:
```

```
SUITSPOT_HOME=/usr/local/iplanet/server4/plugins
```

```
JAVA_HOME=/usr/local/jdk1.3
```

```
OS_TYPE=linux
```

```
INCLUDEDIR=$(SUITSPOT_HOME)/include
```

```
JAVA_INCLUDE=$(JAVA_HOME)/include
```

```
JK_OBJS = jk_nsapi_plugin.o jk_ajp12_worker.o jk_ajp13_worker.o jk_ajp13.o ¥
```

```
jk_lb_worker.o jk_sockbuf.o jk_connect.o jk_map.o jk_msg_buff.o ¥
```

```
jk_uri_worker_map.o jk_util.o jk_jni_worker.o ¥
```

```
jk_pool.o jk_worker.o
```

```
INCLUDE_FLAGS=-I$(INCLUDEDIR) -I$(INCLUDEDIR)/base -I$(INCLUDEDIR)/frame ¥
```

```
-I$(JAVA_INCLUDE) -I$(JAVA_INCLUDE)/$(OS_TYPE)
```

```
COMMON_DEFS=-DMCC_HTTPD -DXP_UNIX -DSPAPI20 -DLINUX -Wall
```

```
all: nsapi_redirector.so
```

```
nsapi_redirector.so:$(JK_OBJS)
```

```
$(MAKE) prepare
```

```
$(LD_SHARED_CMD) $(JK_OBJS) -o nsapi_redirector.so $(EXTRA_LDDEFINES)
```

```
.c.o:
```

```
$(CC_CMD) $(COMMON_DEFS) $(INCLUDE_FLAGS) -c $<
```

```
clean:
```

```
rm $(JK_OBJS)
```

8. make コマンドを実行します。
9. nsapi_redirector.so が作成されます。

5.2.2.2 iPlanet4.1+Tomcat3.2 の設定方法

iPlanet がインストールされているパスを% nes_path%
Tomcat がインストールされているパスを% tom_path%
接続モジュールがあるパスを% nsapi_path%
WebConnector をインストールしたパスを% web_path%
intra-mart のエイリアス名を% im_alias%
として説明します。

n iPlanet 側の設定

% nes_path% /server4/サーバ名/conf/obj.conf を開きます。

1. 以下のコードを追加します。

<windows の場合>

```
Init fn="load-modules" funcs="jk_init,jk_service" shlib="% nsapi_path% /nsapi_redirect.dll"  
Init fn="jk_init" worker_file="% tom_path% /conf/workers.properties"  
    log_level="debug" log_file="% tom_path% /nsapi.log"
```

<solaris,linux の場合>

```
Init fn="load-modules" funcs="jk_init,jk_service" shlib="% nsapi_path% /nsapi_redirector.so"  
Init fn="jk_init" worker_file="% tom_path% /conf/workers.properties"  
    log_level="debug" log_file="% tom_path% /nsapi.log"
```

2. <Object name="default">の直下に以下を追加

```
NameTrans fn="assign-name" from="/% im_alias% /intra-mart" name="tomcat"  
NameTrans fn="pfx2dir" from="/% im_alias% " dir="% web_path% "
```

3. 最後に以下を追加します。

```
<Object name="tomcat">  
    ObjectType fn="force-type" type="text/plain"  
    Service fn="jk_service" worker="ajp12"  
</Object>
```

n Tomcat 側の設定

1. %tom_path%/conf/server.xml に仮想ルートパスを指定します。

```
<Context path="/"
        docBase="% web_path% "
        crossContext="true"
        debug="0"
        reloadable="true"
    >
</Context>
```

n WebConnector 側の設定

1. %web_path%/WEB-INF/web.xml を以下のように変更する。

```
<web-app>
    <servlet>
        <servlet-name>
            intramart
        </servlet-name>
        <servlet-class>
            intramart
        </servlet-class>
        <load-on-startup>1</load-on-startup>
    </servlet>
    <servlet-mapping>
        <servlet-name>
            intramart
        </servlet-name>
        <url-pattern>
            /%im_Alias%/intramart . . . . 仮想パス付で設定します。
        </url-pattern>
    </servlet-mapping>
</web-app>
```

n 起動方法

- Tomcat を起動してから、iPlanet を起動する。

5.2.3 Apache1.3.19+Tomcat3.2 の場合

5.2.3.1 接続モジュールの入手

n iPlanet4.1 と Tomcat3.2 を連携するには、接続モジュールを入手する必要があります。

n WindowsNT,2000 の場合

接続モジュールとして nsapi_redirect.dll が必要になります。

http://jakarta.apache.org/builds/jakarta-tomcat/release/v3.2.2/bin/win32/i386/mod_jk.dll

から入手できます。2001/05/28 現在

n Solaris の場合

- 接続モジュールとして mod_jk.so が必要になります。
- 接続モジュールソースファイルを手取りし、コンパイルして作成する必要があります。
- perl コマンド gccコマンドが使えることが前提になります。

1. JDK1.3 をダウンロードして、インストールします。

2. Tomcatのソースファイルをダウンロードし、適当なディレクトリに展開します。

<http://jakarta.apache.org/builds/jakarta-tomcat/release/v3.2.2/src/jakarta-tomcat-3.2.2-src.tar.gz>

3. から入手できます。2001/05/28 現在

4. ここからは以下の環境として説明します。実際は、各環境に合わせてパスを変更してください。

Apache インストールパスを/usr/local/apache

JDK1.3 をインストールしたパスを/usr/local/jdk1.3

Tomcat のソースファイルを展開したパスを/usr/local/tomcat

5. /usr/local/tomcat/src/native/jk 以下のファイルを /usr/local/tomcat/src/native/apache1.3 以下にすべてコピーします。

6. /home/local/tomcat/src/native/apache1.3 に移動します。

7. 以下のコマンドを実行します。

```
/usr/local/apache/bin/apxs -SCC=gcc -o mod_jk.so -DSOLARIS -I/usr/local/jdk1.3/include -  
I/usr/local/jdk1.3/include/solaris -c *.c
```

8. mod_jk.so が作成されます。

n Linux の場合

- 接続モジュールとして mod_jk.so が必要になります。
 - 接続モジュールソースファイルを手し、コンパイルして作成する必要があります。
 - perl コマンド gcc コマンドが使えることが前提になります。
1. JDK1.3 をダウンロードして、インストールします。
 2. Tomcatのソースファイルをダウンロードし、適当なディレクトリに展開します。
<http://jakarta.apache.org/builds/jakarta-tomcat/release/v3.2.2/src/jakarta-tomcat-3.2.2-src.tar.gz>
 3. から入手できます。2001/05/28 現在
 4. ここからは以下の環境として説明します。実際は、各環境に合わせてパスを変更してください。
Apache インストールパスを/usr/local/apache
JDK1.3 をインストールしたパスを/usr/local/jdk1.3
Tomcat のソースファイルを展開したパスを/usr/local/tomcat
 5. /usr/local/tomcat/src/native/jk 以下のファイルを /usr/local/tomcat/src/native/apache1.3 以下にすべてコピーします。
 6. /home/local/tomcat/src/native/apache1.3 に移動します。
 7. 以下のコマンドを実行します。

```
/usr/local/apache/bin/apxs -o mod_jk.so -I/usr/local/jdk1.3/include -  
I/usr/local/jdk1.3/include/linux -c *.c
```
 8. 最後にコンパイルに失敗する場合は以下のコマンドを実行して下さい。

```
gcc -shared -o mod_jk.so *.o
```
 9. mod_jk.so が作成されます。

5.2.3.2 Apache1.3.19+Tomcat3.2 の設定方法

Apache がインストールされているパスを% apa_path%
Tomcat がインストールされているパスを% tom_path%
WebConnector をインストールしたパスを% web_path%
intra-mart のエイリアス名を% im_alias%
として説明します。

n Apache 側の設定

1. 作成した接続モジュールを以下の場所にコピーします。

<Windows の場合>

% apa_path% /modules にコピーします。

<Solaris, Linux の場合>

% apa_path% /libexec にコピーします。

2. httpd.conf の最後に以下を追加します。

```
Include % tom_path% /conf/mod_jk.conf-auto
```

(この地点では、mod_jk.conf-auto は存在しません。Tomcat を起動すると作成されます。)

3. httpd.conf の最後に以下を追加します。

```
JkMount /% im_alias% /intramart ajp12
```

(この URL の場合 Tomcat に渡されます)

4. httpd.conf の最後に以下を追加します。

```
Alias /% im_alias% / "% web_path% /"
```

```
<Directory "% web_path% /">
```

```
Options Indexes FollowSymLinks MultiViews
```

```
AllowOverride None
```

```
Order allow,deny
```

```
Allow from all
```

```
</Directory>
```

n Tomcat 側の設定

1. %tom_path%/conf/server.xml に仮想ルートパスを指定します。

```
<Context path="/"
        docBase="% web_path% "
        crossContext="true"
        debug="0"
        reloadable="true"
    >
</Context>
```

n WebConnector 側の設定

1. %web_path%/WEB-INF/web.xml を以下のように変更する。

```
<web-app>
    <servlet>
        <servlet-name>
            intramart
        </servlet-name>
        <servlet-class>
            intramart
        </servlet-class>
        <load-on-startup>1</load-on-startup>
    </servlet>
    <servlet-mapping>
        <servlet-name>
            intramart
        </servlet-name>
        <url-pattern>
            /%im_Alias%/intramart . . . . 仮想パス付で設定します。
        </url-pattern>
    </servlet-mapping>
</web-app>
```

n 起動方法

- Tomcat を起動してから、Apache を起動する。

5.2.4 IBM HTTP Server 3.5 + IBM WebSphere 3.5 の場合

n IBM HTTP Server 3.5 の設定

***この説明ではエイリアス名を imart として説明しています。**

***%web_path% は WebConnector をインストールしたディレクトリです。**

IBM HTTP Server 3.5 のコンフィグレーションファイル(httpd.conf)に以下を追加して下さい。

```
Alias /imart/ "%web_path%/"
```

```
<Directory "%web_path%/">
```

```
    AllowOverride None
```

```
    Order allow,deny    -->任意に設定して下さい
```

```
    Allow from all      -->任意に設定して下さい
```

```
</Directory>
```

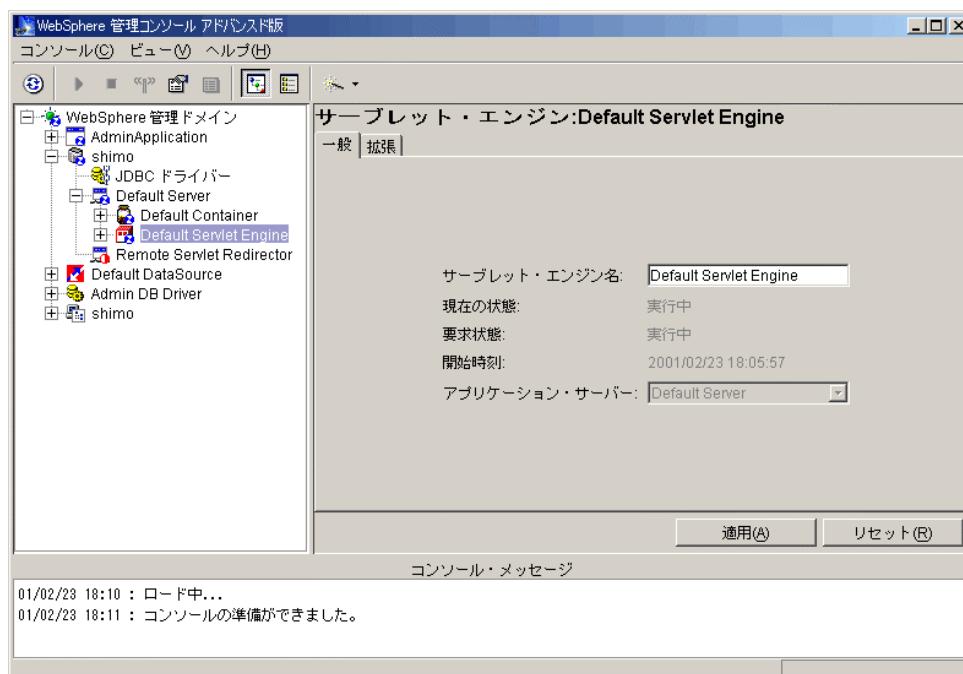
IBM HTTP Server 3.5 を再起動します。

n IBM WebSphere 3.5 の設定

*この説明ではエイリアス名を imart として説明しています。

*%web_path% は WebConnector をインストールしたディレクトリです。

- 1. WebSphere を起動し、管理コンソールを起動します。
 2. 左のツリーから「WebSphere 管理ドメイン」 - 「サーバ名」 - 「Default Server」 - 「Default Servlet Engine」を選択します。
 3. 右クリックのメニューから「作成」 - 「Web アプリケーション」を選択します。



4. Web アプリケーション名に imart と入力します。
5. Web アプリケーション・パスに /imart 入力します。
6. 拡張タブを選択します。

Web アプリケーションの作成

一般 | 拡張

*Web アプリケーション名: imart

説明:

*仮想ホスト: shimo

*Web アプリケーション・パス: /imart

*印は必須フィールドを示します

OK キャンセル クリア

7. 文書ルートに **Web Server Connector をインストールしたパス** を入力します。
8. クラスパスに **Web Server Connector をインストールしたパス** /WEB-INF/classes と入力します。
9. OK を押します。
10. Default Servlet Engine のノードの下に imart が追加されます。imart を選択します。

Web アプリケーションの作成

一般 | 拡張

文書ルート: D:\im_serverweb

クラスパス

クラスパス

D:\im_serverweb\WEB-INF\classes

エラー・ページ:

プロパティ名	プロパティ値

プロパティ:

再ロード間隔 (秒): 9000

自動再ロード: 真

共有コンテキストの設定

共有コンテキストの使用: 偽

共有コンテキスト JNDI 名:

OK キャンセル クリア

11. 右クリックメニューの「作成」 - 「サーブレット」を選択します。
12. サーブレット名に intramart と入力します。
13. サーブレットクラス名に intramart と入力します。
14. サーブレット Web パス・リストに **サーバ名**/imart/intramart を追加します。
15. 拡張タブを選択します。

サーブレットの作成

一般 | 拡張

*サーブレット名: intramart

*Web アプリケーション: imart

説明:

*サーブレット・クラス名: intramart

サーブレット Web パス・リスト

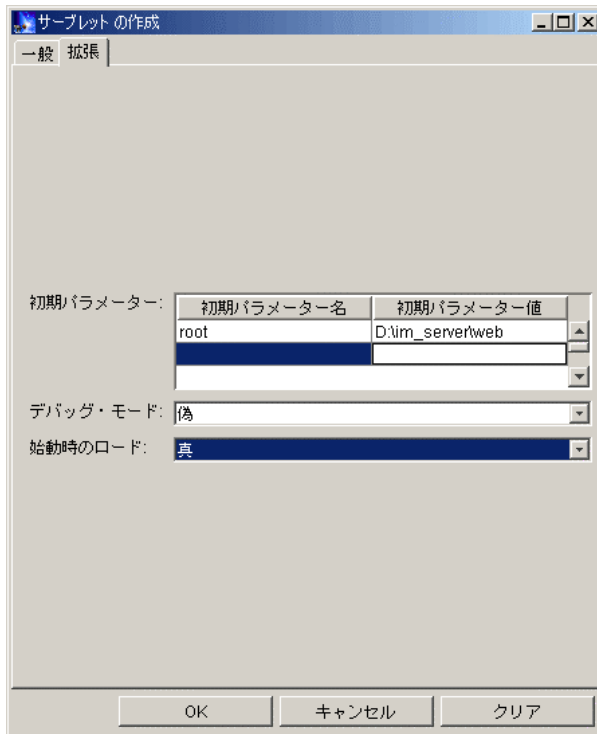
shimo/imart/intramart

追加 編集 削除

*印は必須フィールドを示します

OK キャンセル クリア

16. 初期パラメータ名に root 、 初期パラメータ値に *Web Server Connector をインストールしたパス*を入力してください。
17. 初期時ロードを 真 に設定します。
18. OK ボタンを押します。



19. WebSphere を再起動します。

6 imart.conf の設定項目

項番	セクション名	説明	設定内容	影響
1-1	ACCESS_LOG (アクセスログを出力する)	アクセスログを出力するかどうかを指定します。 cgi 版では出力できません。	ON (ログを出力する) OFF (ログを出力しない)	
1-2	ERROR_LOG (エラーログを出力する)	エラーログを出力するかどうかを指定します。	ON (ログを出力する) OFF (ログを出力しない)	
2	ERROR_LOG_ENCODE (ログ出力文字コード)	エラーログの文字コード SJIS/EUCJIS を指定します。 (通常は自動判別。UNIX 系 OS で SJIS を使用している場合は指定して下さい。)	SJIS (SJIS でログを出力する) EUCJIS (EUCJIS でログを出力する)	
3-1	OBS_ADR (監視サーバのアドレス)	監視サーバのアドレス InfoServer が起動しているサーバのアドレスを指定します。	アドレス	
3-2	OBS_PORT (監視サーバのポート)	監視サーバのポート デフォルトは 49148	ポート	
3-3	OBS_TIME (監視間隔)	監視間隔 監視サーバへ通知する間隔です。デフォルトは 2 秒です	監視間隔 [秒]	
4	HOST_ADDR (AppServer アドレス・ポート)	ラウンドロビン機能を使用しない場合の BM サーバのアドレスを指定します。 ROUNDROBIN=OFF の場合のみ有効です。 [アドレス]には、ホスト名またはアドレスで指定します。 [ポート] は BM サーバと通信するためのポート番号を指定する。 (BM サーバ側の設定と同じにすること) [ポート]を省略した場合のデフォルトポートは 49152 です。	[アドレス]:[ポート]	
5	ROUNDROBIN (ラウンドロビンを行う)	ラウンドロビン機能を使用するかどうかを指定します。	ON (ラウンドロビンを使用する) OFF (ラウンドロビンを使用しない)	
6	PRIORITY (重み付けを行う)	振り分け先 BM サーバの振り分け量の重み付けを行うかどうかを指定します。 ROUNDROBIN=ON の場合のみ有効です。	ON (重み付けを行う) OFF (重み付けを行わない)	
7	AUTO_HOSTS (ホスト自動更新)	り分け先 BM サーバの自動更新を行うかどうか指定します。 ON にした場合、<HOSTS_BLOCK>への記述は必要ありません。 自動的に<HOSTS_BLOCK>へホストを追加します。	ON (自動更新を行う) OFF (自動更新を行わない)	

		<p>ROUNDROBIN=ON の場合のみ有効です。</p> <p>振り分け先 BM サーバのアドレスの指定します。</p> <p>ROUNDROBIN=ON の場合のみ有効です。</p> <p>[アドレス]には、ホスト名またはアドレスで指定します。</p> <p>[ポート] は BM サーバと通信するためのポート番号を指定する。 (BM サーバ側の設定と同じにすること)</p> <p>[ポート]を省略した場合のデフォルトポートは 49152 です。</p> <p>PRIORITY=ON の場合は、より最初に記述したホストへ優先的に処理を振り分けま す。</p>		
8	<pre><HOSTS_BLOCK> [アドレス]:[ポート] . . .</HOSTS_BLOCK></pre>		[アドレス]:[ポート]	

7 imart.ini の設定項目

項番	セクション名	説明	設定内容	影響			
				App Server	Info Server	Batch Server	File Server
1	SYSTEM_SERVER_CHARSET (サーバ文字コード)	OS で使用する文字コードの指定します。 指定しなかったときのデフォルトは自動選択。	SJIS EUCJIS				
2-1	DATAMNG_ADDRESS (InfoServer アドレス)	InfoServer を運用するサーバのアドレスを指定します。 SYSTEM_NETWORK_SERVER=ON の場合は必須項目です。 IP アドレス指定のほうが、DNS サーバへの問い合わせの時間が ない分処理時間が短くなります。 指定しなかった場合のデフォルトアドレスはlocalhost です。	ホスト名またはアドレス		-		-
2-2	DATAMNG_PORT (InfoServer ポート)	InfoServer と通信するためのポート番号を指定する。 SYSTEM_NETWORK_SERVER=ON の場合は必須項目です。 注:InfoServer 側の設定と同じにしてください。 注:WEBSVR_PORT、 BATCH_PORT、 SYSTEM_PROPERTY_SERVER_PORT の設定と同じにしないでください。 ポートを指定しなかったときのデフォルトポートは 49150 です。	ポート番号				-
3-1	SYSTEM_PROPERTY_SERVER_ADDRESS (FileServer アドレス)	FileServer を運用するサーバのアドレスを指定します。 SYSTEM_NETWORK_SERVER=ON の場合は必須項目です。 IP アドレス指定のほうが、DNS サーバへの問い合わせの時間が ない分処理時間が短くなります。 指定しなかった場合のデフォルトアドレスはlocalhost です。	ホスト名またはアドレス		-		-
3-2	SYSTEM_PROPERTY_SERVER_PORT (FileServer ポート)	FileServer と通信するためのポート番号を指定する。 SYSTEM_NETWORK_SERVER=ON の場合は必須項目です。 注:FileServer 側の設定と同じにしてください。 注:WEBSVR_PORT、BATCH_PORT、DATAMNG_PORT の 設定と同じにしないでください。 ポートを指定しなかったときのデフォルトポートは 49150 です。	ポート番号		-		

4-1-1	LOG_ACCESS (アクセスログ)	アクセスログを出力するかどうかを指定します。	ON (ログを出力する) OFF (ログを出力しない)					-
4-1-2	LOG_FILE_ACCESS (アクセスログファイル)	アクセスログの出力ファイルを指定します。 LOG_FILE_ACCESS=ON の場合のみ有効です。 (Intra-Mart install directory / log からの相対パス指定)	ログファイル名					-
4-2-1	LOG_ERROR (エラーログ)	エラーログを出力するかどうかを指定します。	ON (ログを出力する) OFF (ログを出力しない)					-
4-2-2	LOG_FILE_ERROR (エラーログファイル)	エラーログの出力ファイルを指定します。 LOG_ERROR =ON の場合のみ有効です。 (Intra-Mart install directory / log からの相対パス指定)	ログファイル名					-
4-3-1	LOG_WARNING (警告ログ)	ワーニングログを出力するかどうかを指定します。	ON (ログを出力する) OFF (ログを出力しない)					-
4-3-2	LOG_FILE_WARNING (警告ログファイル)	ワーニングログの出力ファイルを指定します。 LOG_WARNING =ON の場合のみ有効です。 (Intra-Mart install directory / log からの相対パス指定)	ログファイル名					-
5	SYSTEM_NETWORK_SERVER (ネットワークサーバ)	<p>InfoServer、FileServer の利用形態を指定します。 この設定は、全てのサーバモジュールで同じ設定にして下さい。</p> <p>ON : InfoServer、FileServer をネットワークアクセスで利用します。 ソケット通信にて他プロセス上の InfoServer、FileServer と連動します。</p> <p>InfoServer および FileServer の稼動しているサーバアドレスと通信ポートの設定が必要です。</p> <p>以下の場合は、必ず ON にしてください。 ・ AppServer をラウンドロビンで運用する場合。 ・ AppServer、InfoServer、FileServer、BatchServer を別のコンピュータで運用する場合。</p> <p>OFF : 現在稼動している AppServer と同じプロセス上で同時動作している InfoServer、FileServer、BatchServer を利用しません。 以下の場合は、必ず OFF にしてください。</p>	ON (ネットワーク経由) OFF (ローカル)					

		・ InfoServer を AppServer または BatchServer が運用されるコンピュータ以外で運用する場合。					
6	SYSTEM_SMTP_SERVER (SMTP サーバアドレス)	メールサーバ(SMTP SERVER)のアドレスを指定します。 メール送信機能を使用するときのみ指定します。	ホスト名またはアドレス		-		-
7	DATABASE_CONNECTION_KEEP_TIME (DB コネクション維持時間)	取得したコネクションの有効時間の指定します。 (自然数を設定:単位は秒) 自然数を指定した場合、指定秒数間、空き状態だったをコネクションを自動的に破棄します。 最小接続数分のコネクションは保持されます。 最小接続数と最大接続数をした場合(画面から指定します) 最大接続数に 0 (ゼロ) を指定した場合は、動的コネクション数変更機能は無効となります。	秒数		-		-
8	DATABASE_CONNECTION_SESSION_TIMEOUT (DB セッション維持時間)	DBコネクション取得後のセッションタイムアウト時間を指定します。 (自然数を設定:単位は秒) 自然数を指定した場合、指定秒数を超過したセッションを自動的に破棄します。 0 (ゼロ) を指定した場合、DBセッションは明示的な開放がされるまで永久に保持されます。 注意:トランザクション開始から終了(commit/rollback)までの時間より短い時間を指定しないようにして下さい。	秒数		-		-
9	DATABASE_CONNECTION_WAIT_TIME (DB コネクション待ち時間)	DBコネクション取得時のタイムアウト時間を指定します。 (自然数を設定:単位は秒) 0 (ゼロ) を指定した場合、コネクション確立がされるまで永久待機になります。	秒数		-		-

10	DATABASE_TRANSACTION_AUTO_END (DB 自動トランザクションモード)	<p>DBセッション強制切断時のトランザクションの終了処理を指定します。</p> <p>DBセッションをタイムアウト等で強制的に切断する際に、中途半端なトランザクションを指定の方法で終了させます。</p> <p>大文字・小文字も厳密に判定するので正確に記述して下さい。</p> <p>自動的に何も処理させたくない場合には "nothing" を指定して下さい。(この場合の処理はDB 依存になります。)</p>	<p>commit rollback nothing</p>		-		-
11-1	LOG_DATABASE (DB ログ)	DB アクセスログを出力するかどうかを指定します。	<p>ON (ログを出力する) OFF (ログを出力しない)</p>		-		-
11-2	LOG_FILE_DATABASE (DB ログファイル)	DB アクセスログファイルを指定します。	ログファイル名		-		-
12	SYSTEM_CLIENT_CHARSET (出力文字コード)	ブラウザに送信するソースの文字コードの指定します。 (指定しなかったときのデフォルトは自動選択)	<p>SJIS EUCJIS</p>		-	-	-
13-1	SYSTEM_BROWSE_LANGUAGE (表示言語)	<p>ブラウザに対する表示言語コードを指定します。</p> <p>実際の表示に関してはブラウザの動作に依存するため、必ずしも、ここでの設定が有効に機能するとは限りません。</p>	Ja (日本語)		-	-	-
13-2	SYSTEM_BROWSE_CHARSET (表示文字コード)	<p>ブラウザに対する表示文字コードを指定します。</p> <p>実際の表示に関してはブラウザの動作に依存するため、必ずしも、ここでの設定が有効に機能するとは限りません。</p> <p>iso-2022-jp を指定した場合、フォームによるデータ送信時に不具合が発生する可能性が有ります。</p> <p>特に文字コード設定を必要としない場合には、この設定項目をコメントアウトしてください。</p>	<p>x-sjis (Shift-JIS) x-euc-jp (EUC) iso-2022-jp (日本語自動判別)</p>		-	-	-
14	SYSTEM_DOCUMENT_ROOT (ドキュメントルート)	<p>アプリケーションルートパスを指定してください。 (通常は設定の必要はありません) ソース・セキュリティをかけたい時のみ設定して下さい。</p>	ルートパス				

15	SYSTEM_SESSION_TIME_OUT (セッション維持時間)	<p>クライアント(ブラウザ)とのセッションを維持する制限時間を指定します。 (自然数を指定:単位は秒)</p> <p>クライアントからの最後のアクセスから指定時間以上が経過している場合は再ログインが必要になります。</p> <p>指定時間の間はクライアント毎の情報をサーバのメモリ内で保持しています。</p>	秒数				
16	SYSTEM_PROGRAM_CACHE (プログラムキャッシュ)	<p>プログラムキャッシュ機能を利用するかどうかを指定します。</p> <p>この設定項目は、運用時適応用オプションになります。</p> <p>開発中は OFF 設定で動作させて下さい。</p> <p>この設定を ON にすると、プログラムのキャッシュ後の更新は反映されません。</p>	ON (利用する) OFF (利用しない)				
17	APPLICATION_LOCK_SESSION (アプリケーションロック時間)	<p>アプリケーションロックを継続する最大時間を指定します。 (自然数を設定:単位は秒)</p> <p>0 (ゼロ) を指定した場合、明示的ロック解除がされない場合、永久にロックが継続されます。</p> <p>自然数を指定した場合、ページアクセスの際にチェックを行い、指定秒数を超過したセッションを自動的に解除します。</p>	秒数				
18	WEBSVR_PORT (AppServer ポート)	<p>WebConnector と通信するためのポート番号を指定します。 複数指定する場合は、',' (カンマ) 区切りで指定します。</p> <p>注 WebConnector の Imart.conf の <HOSTS_BLOCK> 、HOST_ADDR のポート番号と同じ設定にしてください。</p> <p>注:DATAMNG_PORT、 BATCH_PORT、 SYSTEM_PROPERTY_SERVER_PORT の設定と同じにしないでください。</p> <p>ポート番号を指定しなかったときのデフォルトポートは 49152。</p>	ポート				

19	SYSTEM_SESSION_AUTO_KEEP (セッション自動維持)	ON を指定すると、ログイン後の画面においてクライアントセッションを自動維持するように働きます。 この機能を有効にした場合、明示的に Logout しない限りセッションが自動維持されつづけます。	ON (維持する) OFF (維持しない)		-	-	-
20	SYSTEM_POPUP_WEBWINDOW (外部サイト ポップアップ)	この機能を ON にすると、メニューに登録されている外部サイトを表示する時は、新規ウィンドウを立ちあげて外部サイトを表示します。 この機能が OFF の場合は、メニューに登録されているすべてのソースをメニューの右側の作業フレーム内に表示します。	ON (popup する) OFF (popup しない)		-	-	-
21	SYSTEM_BROWSE_CACHE (ブラウザ キャッシュ)	ブラウザに対する intra-mart コンテンツのキャッシュ機能を制限します。 ON の場合 ブラウザの通常の振る舞いに依存します。 OFF の場合 ブラウザに対してコンテンツキャッシュ機能を無効にする命令をブラウザに対して送信します。 (注) OFF を指定している場合において、実際にブラウザがキャッシュ機能を無効にするかどうかは、ブラウザの実装に依存するため、必ずしもこの機能が有効に働くとは限りません。	ON (キャッシュする) OFF (キャッシュしない)		-	-	
22	SYSTEM_NETWORK_BUFFER_SIZE (ネットワークバッファサイズ)	ネットワーク通信の入出力バッファ領域のサイズ指定 (自然数で指定) intra-mart の各サーバ間で通信を行う際の入出力用に使うバッファ領域の大きさをバイト単位で指定します。 この値を大きくすることでネットワークの速度を向上させることができますが、あまりにも大きい数値を指定するとバッファ領域の確保のためのオーバーヘッドが大きくなりレスポンスが低下する場合があります。	バッファサイズ(バイト)				

23	SYSTEM_WORK_TIME_DISPLAY (サーバ処理時間画面表示)	<p>サーバー処理時間を画面表示するかどうかを指定します。</p> <p>サーバー上でリクエストを受け取ってからレスポンスを返すまでの時間を画面に表示します。 (単位:ミリ秒)</p> <p>WebServer との通信時間は含めません。</p> <p>この機能を利用している場合、ファイルダウンロード機能が正しく動作しないことがあります。</p>	ON (表示する) OFF(表示しない)		-	-	-
24	SYSTEM_HTML_SIZE_DISPLAY (ページサイズ画面表示)	<p>画面ソースサイズを画面表示するかどうかを指定します。 生成されたHTMLソースの容量を画面に表示します。</p> <p>この機能を利用している場合、ファイルダウンロード機能が正しく動作しないことがあります。</p>	ON (表示する) OFF(表示しない)		-	-	-
25	SYSTEM_JAVASCRIPT_WARNING_TRACE (JavaScript 実行時警告表示)	<p>JavaScript 実行時警告を表示するかどうか指定します。</p> <p>トレース情報として、JavaScript の実行時に発生した警告を表示します。</p>	ON (表示する) OFF(表示しない)		-		-
26	APILIST_DISPLAY (APIリスト表示)	<p>APIリストを画面に表示するかどうか指定します。</p>	ON (表示する) OFF(表示しない)		-	-	-
27	SYSTEM_HTML_COMMENT_CUT (HTML コメント削除)	<p>Presentation Page コンパイル時のコメントアウト機能の設定 (ON or OFF を指定)</p> <p>この設定を ON にすると、*.html ファイルをコンパイルする際にHTML 形式のコメントを除去しながら動作します。</p> <p>HTMLのコメントが除去される事で全体の動作の高速化を図る事ができます。</p> <p>ただし、HTMLコメント中に重要なソースが含まれている場合、不具合の原因になることがありますので、ご注意ください。</p>	ON (削除する) OFF(削除しない)		-	-	-

28	SYSTEM_REQUEST_BACKLOG (AppServer 要求待ち行列の最大数)	AppServer へのリクエストの最大待機数を設定します。 受信する接続要求の待ち行列の最大数。(Socket の待ち行列) この数を越えるリクエストが同時に来た時は接続に失敗します。 指定しなかった場合のデフォルト値は 50。	待ち行列数		-	-	-
29	DATAMNG_REQUEST_BACKLOG (InfoServer 要求待ち行列の最大数)	InfoServer へのリクエストの最大待機数を設定します。 受信する接続要求の待ち行列の最大数。(Socket の待ち行列) この数を越えるリクエストが同時に来た時は接続に失敗します。 指定しなかった場合のデフォルト値は 50。	待ち行列数		-	-	-
30	SYSTEM_PROPERTY_SERVER_REQUEST_BACKLOG (File Server 要求待ち行列の最大数)	FileServer へのリクエストの最大待機数を設定します。 受信する接続要求の待ち行列の最大数。(Socket の待ち行列) この数を越えるリクエストが同時にきたときは接続に失敗します。 指定しなかったときのデフォルト値は 50。	待ち行列数		-	-	-
31	BATCH_SERVER (Batch Server アドレス)	BatchServer を運用するサーバのアドレスを指定して下さい。	アドレス		-	-	-
32	BATCH_PORT (Batch Server ポート)	BatchServer 通信用ポート番号指定してください。 注:WEBSVR_PORT、DATAMNG_PORT、SYSTEM_PROPERTY_SERVER_PORT と同じ設定にしないでください。 ポート番号を指定しなかったときのデフォルトポートは 49151。	ポート		-	-	-
33	BATCH_LOAD_TIME (バッチ情報取得開始時間)	ロードタイムを指定していただきます。(24 時間表記) (毎日、この時間に 1 日分のバッチ処理をロードします。)	ロードタイム (HH:MM:SS)		-	-	-
34	BATCH_CHECK_TIMER (バッチ監視時間)	タイマーを指定してください。(単位は秒) (常駐しているバッチ処理の実行する時間をチェックする間隔。)	秒数		-	-	-

35	BATCH_RUN (atch Server 初期起動モード)	<p>起動直後の状態のを指定してください。</p> <p>ON : BatchServer プロセスが立ち上がると同時に設定情報をロードして直ちに動作を開始します。</p> <p>OFF: BatchServer プロセスが立ち上がっても、設定情報はロードせずに、開始要求の待機状態になります。</p>	<p>ON (起動状態) OFF (停止状態)</p>	-	-	-	-
36-1-1	LOG_BATCH (バッチログ)	バッチログを出力するかどうか指定します。	<p>ON (ログを出力する) OFF (ログを出力しない)</p>	-	-	-	-
36-1-2	LOG_FILE_BATCH (バッチログファイル)	<p>バッチログの出力ファイルを指定します。</p> <p>LOG_BATCH =ON の場合のみ有効です。 (Intra-Mart install directory からの相対パス指定)</p>	待ち行列数	-	-	-	-
36-2-1	LOG_BATCH_ERR (バッチエラーログ)	バッチエラーログを出力するかどうか指定します。	<p>ON (ログを出力する) OFF (ログを出力しない)</p>	-	-	-	-
36-2-2	LOG_FILE_BATCH_ERR (バッチエラーログファイル)	<p>バッチエラーログの出力ファイルを指定します。</p> <p>LOG_BATCH_ERR =ON の場合のみ有効です。 (Intra-Mart install directory からの相対パス指定)</p>	ログファイル名	-	-	-	-
36-1	CENTRAL_SERVER_ADDRESS (監視サーバアドレス)	監視サーバのアドレスを指定します。 通常は、InfoServer のアドレスと同じになります。	アドレス				
36-2	CENTRAL_SERVER_PORT (監視サーバポート)	監視サーバのポートを指定します。 デフォルトポートは 49148 です。	ポート				
36-3	AGT_TIME (監視間隔)	監視サーバへサーバ情報を通知する間隔です。 デフォルトは 2 秒です。	秒数				
37	<p>AGT_JAVA_XXXX AGT_XXXX_JAVA_XXXX AGT_XXXX_XXXX_JAVA_XXXX (Java 起動オプション)</p>	<p>サーバモジュールの Java 起動オプションの指定を行います。</p> <p>AGT_JAVA_XXXX はサーバモジュール共通の設定。</p> <p>AGT_サーバの種類_JAVA_XXXX サーバモジュール別の設定。 サーバの種類には、APP、INFO、FILE、BATCH があります。 AGT_APP_JAVA_XXXX は AppServer 共通の設定です。 AGT_INFO_JAVA_XXXX は InfoServer 共通の設定です。</p>					

	<p>AGT_FILE_JAVA_XXXX は FileServer 共通の設定です。 AGT_BATCH_JAVA_XXXX は BatchServer 共通の設定です。</p> <p>AGT_サーバの種類_ポート番号_JAVA_XXXX サーバの種類には、APP、INFO、FILE、BATCH があります。 ポート番号はサーバモジュールのポート番号です。 サーバの種類とポート番号まで指定すると、サーバモジュール固有の設定が可能です。</p> <p>XXXXには、各オプションを指定します。 XXXXは、CP、XMS、XMX、ETC があります。</p> <p>CP には クラスパスを指定します。 (例)AGT_JAVA_CP=-cp c:\imv21\imart.jar (例)AGT_APP_JAVA_CP=-cp c:\imv21\imart.jar</p> <p>XMS には XMS を指定します。 (例)AGT_JAVA_XMS=-Xms16m (例)AGT_INFO_49150_JAVA_XMS=-Xms16m</p> <p>XMX には XMX を指定します。 (例)AGT_JAVA_XMX=-Xmx32m (例)AGT_FILE_JAVA_XMX=-Xmx32m</p> <p>ETC には その他のオプションを指定します。</p> <p>各 JAVA オプション内容の決定方法 InfoServer でcpオプションの決定方法について解説します。 InfoServer のポート番号が49150の場合</p> <p>AGT_INFO_49150_JAVA_CP のクラスパスが有効です。 AGT_INFO_49150_JAVA_CP が無いか、空文字列の場合は</p> <p>AGT_INFO_JAVA_CP のクラスパスが有効です。 AGT_INFO_JAVA_CP が無いか、空文字列の場合は</p> <p>AGT_JAVA_CP が有効となります。</p>					
--	--	--	--	--	--	--

<p>38</p>	<p>AGT_XXXX AGT_XXXX_XXXX AGT_XXXX_XXXX_XXXX (サーバ自動復旧)</p>	<p>サーバモジュールの自動復旧オプションの指定を行います。</p> <p>AGT_XXXX はサーバモジュール共通の設定。</p> <p>AGT_サーバの種類_XXXX サーバモジュール別の設定。 サーバの種類には、APP、INFO、FILE、BATCH があります。 AGT_APP_XXXX はAppServer 共通の設定です。 AGT_INFO_XXXX はInfoServer 共通の設定です。 AGT_FILE_XXXX はFileServer 共通の設定です。 AGT_BATCH_XXXX はBatchServer 共通の設定です。</p> <p>AGT_サーバの種類_ポート番号_XXXX サーバの種類には、APP、INFO、FILE、BATCH があります。 ポート番号はサーバモジュールのポート番号です。 サーバの種類とポート番号まで指定すると、サーバモジュール固有の設定が可能です。</p> <p>XXXXには、各オプションを指定します。 XXXXは、AUTO_START、RESTART_TIME、 RESTART_MEM、GC_MEM があります。</p> <p>AUTO_START には 自動復旧モードを指定します。 ON に設定すると、サーバモジュールがダウンした場合でも自動的に再起動を行います。 (例)AGT_AUTO_START=ON (例)AGT_APP_AUTO_START=OFF</p> <p>RESTART_TIME には 再起動時間を指定します。 HH:MM:SS の形で設定します。 毎日、指定した時間にサーバモジュールを再起動します。 (例)AGT_RESTART_TIME=05:00:00 (例)AGT_INFO_49150_RESTART_TIME =00:00:00</p> <p>RESTART_MEM には 再起動を行うメモリを指定します。 サーバモジュールのメモリ使用量(Total Memory)が指定したメモリを越えたときサーバモジュールを再起動します。</p>					
-----------	--	---	--	--	--	--	--

		<p>(例)AGT_RESTART_MEM =32m (例)AGT_FILE_RESTART_MEM =64m</p> <p>GC_MEM には GC (ガベージコレクタ)を実行する条件を指定します。パーセンテージで指定します。 サーバモジュールの free Memory / Total Memory * 100 が指定したパーセンテージを下回ったときサーバモジュールで GC を実行します。</p> <p>(例)AGT_GC_MEM =20 (例)AGT_APP_49152_GC_MEM =30</p> <p>各自動復旧オプション内容の決定方法 AppServer で自動復旧モードの決定方法について解説します。 AppServer のポート番号が 49152 の場合</p> <p>AGT_APP_49152_AUTO_START の自動復旧モードが有効です。 AGT_APP_49152_AUTO_START が無いが、空文字列の場合は</p> <p>AGT_APP_AUTO_START の自動復旧モードが有効です。 AGT_APP_AUTO_START が無いが、空文字列の場合は</p> <p>AGT_AUTO_START が有効となります。</p>					
--	--	--	--	--	--	--	--

8 起動と停止

8.1 コマンドプロンプトで動作させる場合

- AppServer、InfoServer、FileServer、BatchServer を同じプロセス内で運用する場合、「8.1.4 AppServer の起動」の操作のみですべてのサーバが起動します。
(imart.ini の DATAMNG_NETWORK_SERVER フラグを OFF にしている場合は、AppServer 起動と同時に InfoServer、FileServer、BatchServer も起動します)
- WebConnctor を CGI 版で運用する場合は WebConnctorAgent を起動する必要があります。
(Servlet 版では、必要ありません)

8.1.1 java.exe コマンドのオプション

n -cp オプション

クラスパス (フルパス)、jar ファイル (フルパス)、zip ファイル (フルパス) を指定します。

2 つ以上指定する場合は

Windows NT では ‘;’ (セミコロン) で

Solaris Linux では ‘:’ (コロン) でつなぎます。

(例) `java -cp c:\imv2\imart.jar imart.InfSrv`

n -Xms オプション

JavaVM 初期起動時のメモリ確保量 (バイト) です。

(例) `java -cp c:\imv2\imart.jar -Xms32m imart.InfSrv`

(初期起動時に 32M バイトのメモリを確保します)

n -Xmx オプション

- JavaVM が起動中に増やすことのできるメモリ量の最大値 (バイト) です。

(例) `java -cp c:\imv2\imart.jar -Xmx64m imart.InfSrv`

(起動中に最大 64M バイトのメモリを確保します)

8.1.2 InfoSever の起動(コマンドプロンプトから)

コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

WindowNT の場合

```
java -cp %im_path%\imart.jar imart.InfSrv
```

Solaris、Linux RedHat の場合

```
java -cp %im_path%/imart.jar imart.InfSrv
```

- **-cp オプションには、InfoServer をインストールしたフォルダを指定して下さい。**

(例) `java -cp C:\im_server\imart.jar imart.InfSrv`

以下のように表示されましたら起動成功です。

```
intra-mart Information Server started!
```

```
Request waiting...
```

8.1.3 FileSever の起動(コマンドプロンプトから)

コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

WindowNT の場合

```
java -cp %im_path%\imart.jar imart.PrpSrv
```

Solaris、Linux RedHat の場合

```
java -cp %im_path%/imart.jar imart.PrpSrv
```

- **-cp オプションには、FileServer をインストールしたフォルダを指定して下さい。**

(例) `java -cp C:\im_server\imart.jar imart.PrpSrv`

以下のように表示されましたら起動成功です。

```
intra-mart File Server started!
```

```
Request waiting...
```

8.1.4 AppServer の起動(コマンドプロンプトから)

別のコマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

WindowNT の場合

```
java -cp %im_path%\¥imart.jar imart.AppSrv
```

Solaris、Linux RedHat の場合

```
java -cp %im_path%/imart.jar imart.AppSrv
```

- -cp オプションには、AppServer をインストールしたフォルダを指定して下さい。

(例) `java -cp C:\¥im_server¥imart.jar imart.AppSrv`

以下のように表示されましたら起動成功です。

```
intra-mart Application Server started!
```

```
Request waiting...
```

**インストール時に AppServer ポートにポート番号を 2 つ以上入力した場合
または、imart.ini の WEBSVR_PORT にポート番号を 2 つ以上入力した場合は
別のコマンドプロンプトから上記のコマンドを実行することで、自動的にポート番号を選択して、起動するようになっております。
ポート番号を入力した数だけ同じコマンドで AppServer を起動できます。**

8.1.5 BatchServer の起動(コマンドプロンプトから)

別のコマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

WindowNT の場合

```
java -cp %im_path%\¥imart.jar imart.BatSrv
```

Solaris、Linux RedHat の場合

```
java -cp %im_path%/imart.jar imart.BatSrv
```

- -cp オプションには、BatchServer をインストールしたフォルダを指定して下さい。
- (例) `java -cp C:\¥im_server¥imart.jar imart.BatSrv`

以下のように表示されましたら起動成功です。

```
Waiting request...
```

停止させるには、Ctrl+C キーで停止させます。

8.1.6 WebConnectorAgent の起動(コマンドプロンプトから)

WebConnector をインストールしたコンピュータで実行します。
別のコマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

WindowNT の場合

```
java -cp %web_path%\imart.jar imart.CntSrv
```

Solaris、Linux RedHat の場合

```
java -cp %web_path%/imart.jar imart.CntSrv
```

- -cp オプションには、WebConnector をインストールしたフォルダを指定して下さい。
- (例)java -cp C:\im_server\web\imart.jar imart.CntSrv

以下のように表示されましたら起動成功です。

```
intra-mart Web Connector Agent Started.
```

停止させるには、Ctrl+C キーで停止させます。

8.1.7 Windows NT のサーバ起動メニュー

Windows NT では、インストールを行うと、[スタートメニュー]-[プログラム]-[intra-mart ver 2.2.0]にコマンドプロンプトでサーバを起動するメニューが追加されます。

n

- 各サーバの起動メニューの実体は、以下のバッチファイルです。

InfoServer	:	%サーバをインストールしたパス%\nt\info\imart.bat
AppServer	:	%サーバをインストールしたパス%\nt\app\imart.bat
FileServer	:	%サーバをインストールしたパス%\nt\file\imart.bat
BatchServer	:	%サーバをインストールしたパス%\nt\batch\imart.bat
WebConnectorAgent	:	%コネクタをインストールしたパス%\nt\agent\imart.bat

intra-mart BaseModule Ver2.2.0 では、imart.bat を編集する必要はありませんが
各サーバの起動コマンドを変更したい場合は、各サーバ用の imart.bat を編集してください。

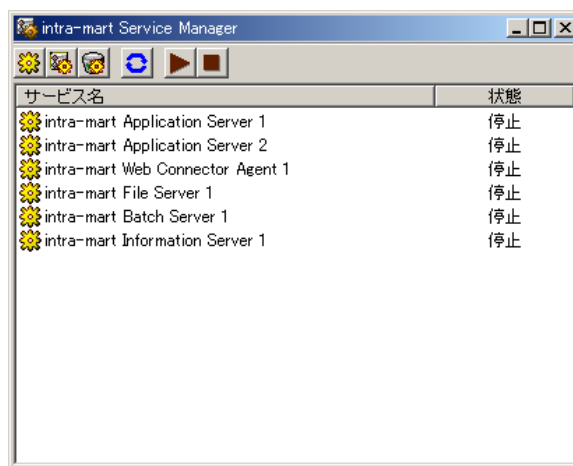
8.2 NT サービスとして動作させる場合

WindowsNTでのみ利用可能です。

NT サービスは intra-mart ServiceManager を使用して行います。

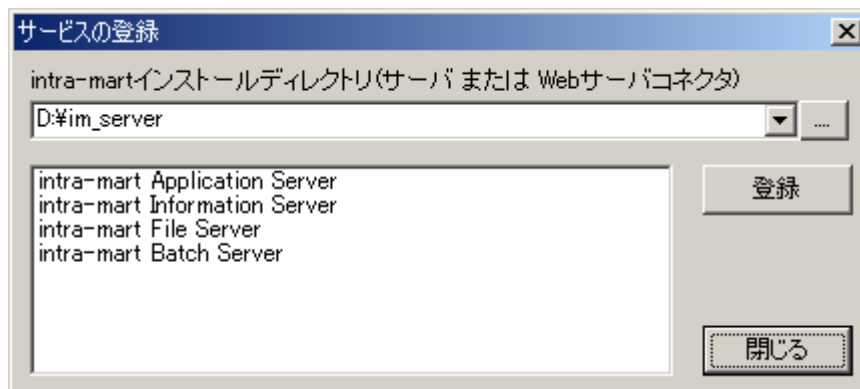
Windows NT では、インストールを行うと、[スタートメニュー]-[プログラム]-[intra-mart ver 2.2.0]-[Admin Tools]の intra-mart ServiceManager メニューが追加されます。

各サーバ(AppServer、InfoServer、BatchServer、FileServer、WebConnectorAgent)は NT のサービスプログラムとして登録することが可能です。



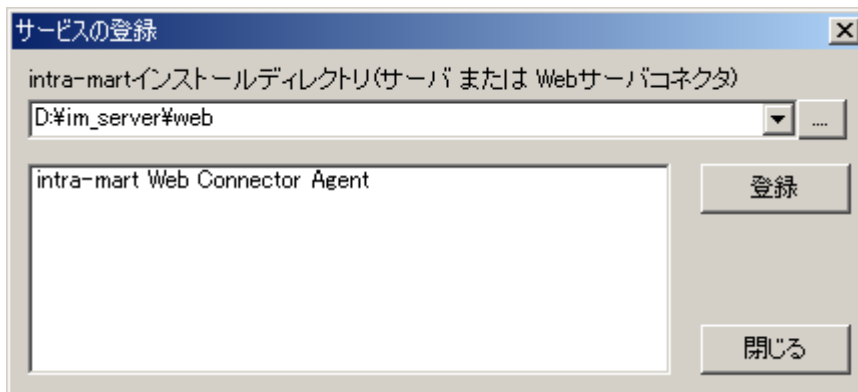
8.2.1 サーバモジュールのサービス化

1. ServiceManager のサービス登録ボタンを押します。
2. サーバモジュールをインストールしたパスを入力します。
3. サービス化できるサーバモジュールが表示されます。
4. サービス化するサーバモジュールを選択し、登録を押します。



8.2.2 コネクタエージェントのサービス化

1. ServiceManager のサービス登録ボタンを押します。
2. サーバモジュールをインストールしたパスを入力します。
3. サービス化できるコネクタエージェントが表示されます。
4. サービス化するコネクタエージェントを選択し、登録を押します。



8.3 デーモンとして動作させる場合

Solaris , Linux RedHat でのみ利用可能です。

各サーバ (AppServer、InfoServer、BatchServer、FileServer) はデーモンとして登録することが可能です。

8.3.1 AppServer のデーモン化

Solaris の場合

% im_path%/solaris/app フォルダに以下のファイルがあります。

Linux RedHat の場合

% im_path%/linux/app フォルダに以下のファイルがあります。

appsrv.sh シェルファイルのサンプル

appsrv.sh はデーモン化のサンプルですので、システム環境に合わせて、ファイル名、内容などを変更してご使用ください。

appsrv.sh の変更点

ファイル名も任意に変更してください。

1 行目 sh シェルを起動するためのパスを指定します。

9 行目 java のパスを指定します。

12 行目 intra-mart をインストールしたパスを指定します。

17 行目 各コマンドを実行するために必要なパスを指定します。

(echo, cat, awk etc)

- メモリのオプション設定は環境に合わせて調節して下さい。
- -cp オプションには、AppServer をインストールしたフォルダを指定して下さい。

(例)java -cp /usr/im_path/imart.jar imart.AppSrv

起動方法

起動 appsrv.sh start

停止 appsrv.sh stop

8.3.2 InfoServer のデーモン化

AppServer と InfoServer と FileServer を同プロセスで動作させる場合は不要です。

(imart.ini の SYSTEM_NETWORK_SERVER フラグを OFF にしている場合)

Solaris の場合

% im_path% /solaris/info フォルダに以下のファイルがあります。

Linux RedHat の場合

% im_path% /linux/info フォルダに以下のファイルがあります。

infosrv.sh シェルファイルのサンプル

infosrv.sh はデーモン化のサンプルですので、システム環境に合わせて、ファイル名、内容などを変更してご使用ください。

infosrv.sh の変更点

ファイル名も任意に変更してください。

1 行目 sh シェルを起動するためのパスを指定します。

9 行目 java のパスを指定します。

12 行目 intra-mart をインストールしたパスを指定します。

17 行目 各コマンドを実行するために必要なパスを指定します。

(echo, cat, awk etc)

- **メモリのオプション設定は環境に合わせて調節して下さい。**
- **-cp オプションには、InfoServer をインストールしたフォルダを指定して下さい。**

(例) java -cp /usr/im_path/imart.jar imart.InfSrv

起動方法

起動 infosrv.sh start

停止 infosrv.sh stop

8.3.3 FileServer のデーモン化

AppServer と InfoServer と FileServer を同プロセスで動作させる場合は不要です。

(imart.ini の SYSTEM_NETWORK_SERVER フラグを OFF にしている場合)

Solaris の場合

% im_path%/solaris/file フォルダに以下のファイルがあります。

Linux RedHat の場合

% im_path%/linux/file フォルダに以下のファイルがあります。

filesrv.sh シェルファイルのサンプル

filesrv.sh はデーモン化のサンプルですので、システム環境に合わせて、ファイル名、内容などを変更してご使用ください。

filesrv.sh の変更点

ファイル名も任意に変更してください。

1 行目 sh シェルを起動するためのパスを指定します。

9 行目 java のパスを指定します。

12 行目 intra-mart をインストールしたパスを指定します。

17 行目 各コマンドを実行するために必要なパスを指定します。

(echo, cat, awk etc)

- メモリのオプション設定は環境に合わせて調節して下さい。
- -cp オプションには、FileServer をインストールしたフォルダを指定して下さい。

(例)java -cp /usr/im_path/imart.jar imart.PrpSrv

起動方法

起動 filesrv.sh start

停止 filesrv.sh stop

8.3.4 BatchServer のデーモン化

Solaris の場合

% im_path%/solaris/batch フォルダに以下のファイルがあります。

Linux RedHat の場合

% im_path%/linux/batch フォルダに以下のファイルがあります。

batchsrv.sh シェルファイルのサンプル

batchsrv.sh はデーモン化のサンプルですので、システム環境に合わせて、ファイル名、内容などを変更してご使用ください

batchsrv.sh の変更点

ファイル名も任意に変更してください。

1 行目 sh シェルを起動するためのパスを指定します。

9 行目 java のパスを指定します。

12 行目 intra-mart をインストールしたパスを指定します。

17 行目 各コマンドを実行するために必要なパスを指定します。

(echo, cat, awk etc)

- メモリのオプション設定は環境に合わせて調節して下さい。
- -cp オプションには、BatchServer をインストールしたフォルダを指定して下さい。

(例)java -cp /usr/im_path/imart.jar imart.BatSrv

起動方法

起動 batchsrv.sh start

停止 batchsrv.sh stop

8.3.5 WebConnectorAgent のデーモン化

Solaris の場合

% web_path% /solaris/agent フォルダに以下のファイルがあります。

Linux RedHat の場合

% web_path% /linux/agent フォルダに以下のファイルがあります。

cntagt.sh シェルファイルのサンプル

cntagt.sh はデーモン化のサンプルですので、システム環境に合わせて、ファイル名、内容などを変更してご使用ください

cntagt.sh の変更点

ファイル名も任意に変更してください。

1 行目 sh シェルを起動するためのパスを指定します。

9 行目 java のパスを指定します。

12 行目 intra-mart をインストールしたパスを指定します。

17 行目 各コマンドを実行するために必要なパスを指定します。

(echo, cat, awk etc)

- メモリのオプション設定は環境に合わせて調節して下さい。
- -cp オプションには、WebConnector をインストールしたフォルダを指定して下さい。

(例)java -cp /usr/im_path/imart.jar imart.CntSrv

起動方法

起動 cntagt.sh start

停止 cntagt.sh stop

起動すると、%web_path% に cntagt.pid ファイルが作成されますが、WebConnectorAgent を停止させる時に必要なファイルですので、削除したり、変更したりしないでください。

8.4 管理ツール intra-mart Administrator の利用

8.4.1 intra-mart Administrator の起動(コマンドプロンプトから)

intra-mart Administrator をインストールしたコンピュータで実行します。

別のコマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

WindowNT の場合

```
java -cp %im_path%\imart.jar imart.ImartAdmin
```

Solaris、Linux RedHat の場合

```
java -cp %im_path%/imart.jar imart.ImartAdmin
```

- -cp オプションには、intra-mart Administrator をインストールしたフォルダを指定して下さい。
- (例)java -cp C:\im_server\web\imart.jar imart.ImartAdmin

なお、Solaris Linux では Xwindow が起動しているマシンでのみ利用できます。

intra-mart Administrator はサーバモジュールを運用しているコンピュータ以外でもリモートで運用を管理することができます。

Windows NT では、インストールを行うと、[スタートメニュー]-[プログラム]-[intra-mart ver 2.1.0]-[Admin Tools]の intra-mart Administrator メニューが追加されます。

起動時にログイン画面が表示されます。

監視サーバアドレス : InfoServer があるコンピュータのアドレスを指定します。

監視サーバポート : 49148 (デフォルト)

パスワード : intramart (初期設定)


でログインできます。

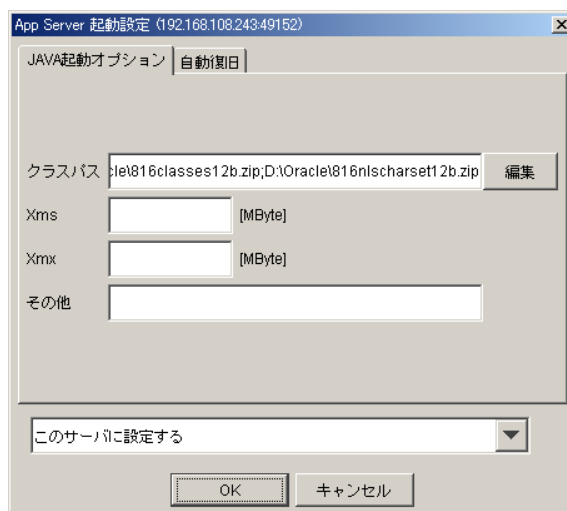
パスワードは、ログイン後、メニューから任意に変更してください。



詳しくはマニュアルを参照してください。

8.4.2 intra-mart Administrator のからの Java 起動オプション設定

intra-mart Administrator では、各サーバモジュールに対して Java 起動オプションの設定ができます。

1. 必要なサーバモジュールを起動します。(サーバの起動については 7.1 ~ 7.3 を参照)
2. intra-mart Administrator を起動し、ログインします。
3. Java 起動オプションを設定するサーバを選択します。
4. サーバ起動設定  のボタンをクリックします。
5. サーバ起動設定ダイアログが表示されます。



6. 各設定項目を設定してください。
7. OK を押してください。
8. サーバを再起動します。停止  を押してサーバが停止したら、起動  を押しします。

これで、サーバに Java 起動オプションが反映されます。

8.5 intra-mart へのログイン

ブラウザから、以下のような URL を発行します。

n CGI 版を利用する場合

http:// ホスト名 / エイリアス名 / intramart.cgi

(例)http://hostname/imart/intramart.cgi (CGI 版を利用する場合)

エイリアス名

- 5.1.1 の IIS 4.0 の場合の 3 で設定したエイリアスです。
- 5.1.2 の IIS 5.0 の場合の 5 で設定したエイリアスです。
- 5.1.3 の Apache で設定したエイリアスです。

n Servlet 版を利用する場合

http:// ホスト名 / エイリアス名 / intramart

(例)http://hostname/imart/intramart (Servlet 版を利用する場合)

エイリアス名

- 5.2.1 の iPlanet 4.1 の 12 で設定した URL prefix です。
- 5.2.2 の iPlanet 4.1+Tomcat4.2 の %im_alias% で設定したエイリアスです。
- 5.2.3 の Apache1.3.19+Tomcat4.2 の%im_alias% で設定したエイリアスです。
- 5.2.4 の IBM HTTP Server3.5+IBM WebSphere で設定したエイリアスです。

初期データ登録画面が表示されましたら成功です。

初期データを登録し、ユーザ master、パスワード master でログインして下さい。

データベースを使用する場合

ログイン後、メニューの[システム設定] - [マルチグループ] - [ログイングループ]画面で
"DEFAULT"グループに使用するデータベースの設定をして下さい。

DB に接続後、同ページの最下部、SQL ファイルインポートの sql ファイル取り込みボタン
を押します。システムとして必要なデータが登録されます。

* 詳しくはマニュアルをご覧ください。

サンプルアプリ(画面)を使用する場合

メニューの[サンプル] [サンプル用データ] 登録ボタン によって
初期データを登録して下さい。

(サンプルアプリにはデータベースが必要です。)

* 詳しくはマニュアルをご覧ください。

ユーザプログラムの作成

InfoServer をインストールしたフォルダ以下に.html ファイルと.js ファイルを作成し、ページ設定画面(メニューの[システム設定]-[ページ])にて登録して下さい。

* 詳しくはマニュアルをご覧ください。

8.6 データベースへの接続方法

8.6.1 Oracle を JDBC 経由での接続

1. 必要なサーバモジュールを起動します。(サーバの起動については7.1～7.3を参照)
2. intra-mart Administrator から AppServer および BatchServer のサーバ起動設定画面の JAVA 起動オプションタブのクラスパスに JDBC ドライバのパスを追加します。
(8.4.2 の intra-mart Administrator のからの Java 起動オプション設定を参照)

Windows の場合

% im_path%¥imart.jar;% JDBC_PATH%

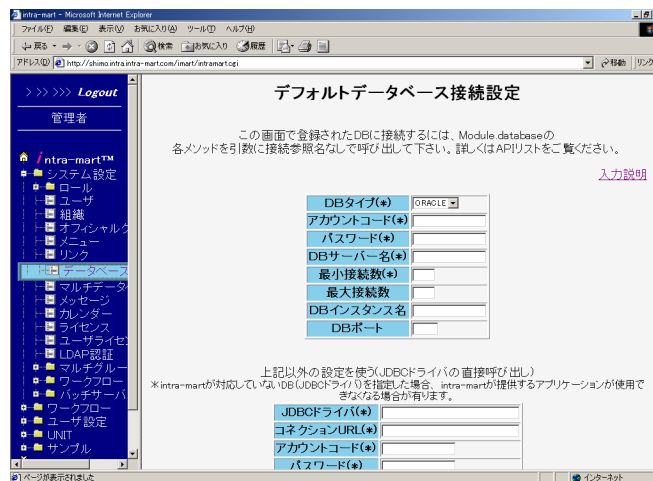
(例) D:¥im_server¥imart.jar; D:¥Oracle¥816classes12b.zip;D:¥Oracle¥816nlscharset12b.zip

Solaris, Linux の場合

% im_path% /imart.jar:% JDBC_PATH%

(例) /usr/imv2/imart.jar:/usr/oracle/816classes12b.zip /usr/oracle/816nlscharset12b.zip

3. OK を押して、intra-mart Administrator からサーバを再起動します。
4. ブラウザから intra-mart へ master/master でログインします。
5. メインメニューの「システム設定」-「データベース」を開きます。



6. 以下の項目を設定します。

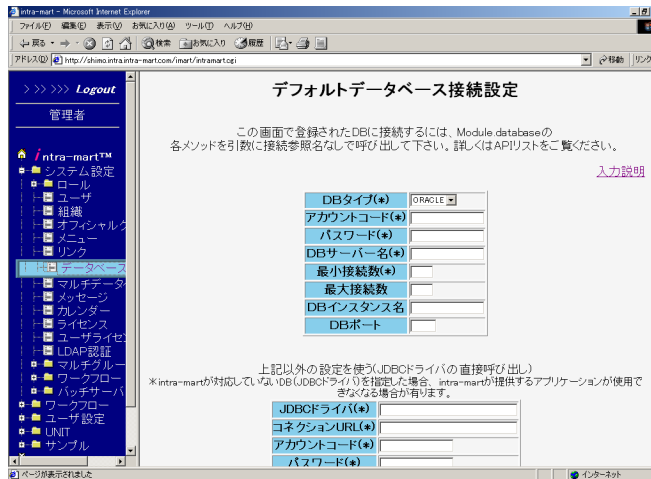
DB タイプ	ORACLE
アカウントコード	DB 接続ユーザ名
パスワード	DB 接続ユーザのパスワード
DB サーバー名	DB サーバの IP アドレス または ドメイン名
最小接続数	1 以上
最大接続数	空白 または 1 以上
DB インスタンス名	任意 (デフォルトは ORCL)
DB ポート	任意 (デフォルトは 1521)

7. 登録ボタンを押します。

8. 登録に成功したら、接続します。
9. これで、DB が利用可能になりました。

8.6.2 MS-SQL Server、Oracle を ODBC 経由での接続

1. 必要なサーバモジュールを起動します。(サーバの起動については7.1～7.3を参照)
2. ブラウザから intra-mart へ master/master でログインします。
3. メインメニューの「システム設定」-「データベース」を開きます。



4. 以下の項目を設定します。

DB タイプ	ODBC
アカウントコード	DB 接続ユーザ名
パスワード	DB 接続ユーザのパスワード
DB サーバー名	ODBC データソース名
最小接続数	1 以上
最大接続数	空白
DB インスタンス名	空白
DB ポート	空白

5. 登録ボタンを押します。
6. 登録に成功したら、接続します。
7. これで、DB が利用可能になりました。

8.6.3 IBM DB2 を JDBC 経由での接続

1. 必要なサーバモジュールを起動します。(サーバの起動については7.1～7.3を参照)
2. intra-mart Administrator から AppServer および BatchServer のサーバ起動設定画面の JAVA 起動オプションタブのクラスパスに JDBC ドライバのパスを追加します。
(7.4.2 の intra-mart Administrator のからの Java 起動オプション設定を参照)

Windows の場合

% im_path%¥imart.jar;% JDBC_PATH %

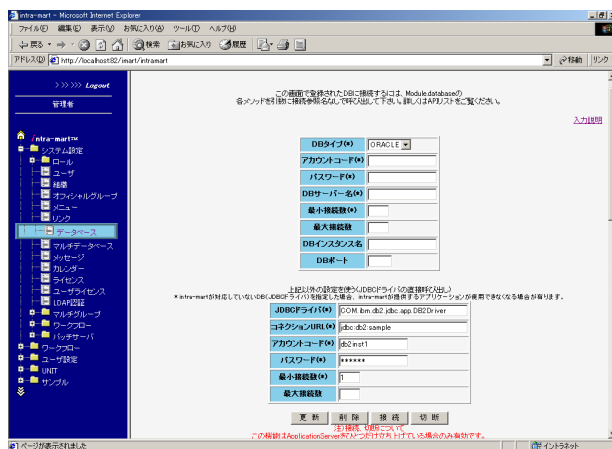
(例) D:¥im_server¥imart.jar; D:¥db2¥sqlib¥java¥db2java.zip

Solaris, Linux の場合

% im_path% /imart.jar;% JDBC_PATH %

(例) /usr/imv2/imart.jar:/usr/db2/dbsqlib/java/db2java.zip

3. ブラウザから intra-mart へ master/master でログインします。
4. メインメニューの「システム設定」-「データベース」を開きます。



5. 下の段の入力項目に対して設定します。

JDBC ドライバ	COM.ibm.db2.jdbc.app.DB2Driver
接続 URL	jdbc:db2:
アカウントコード	DB 接続ユーザ名
パスワード	DB 接続ユーザのパスワード
最小接続数	1 以上
最大接続数	空白

6. 登録ボタンを押します。
7. 登録に成功したら、接続します。
8. これで、DB が利用可能になりました。

8.7 注意事項

- ・画面の動作が不安定なときは、ブラウザのキャッシュをクリアした後、サーバのドキュメントと毎回比較するように設定し、ブラウザを再起動してください。

9 サンプルデータの投入

製品インストール後に intra-mart へサンプルデータをインストールすると、
利用方法のイメージ理解がさらに進みます。

sample データはデータベースの利用が前提になっています。

n データベースの設定

既に設定が済んでいる場合は、この操作は不要です。

1. intra-mart へログイン
2. メニューの[システム設定]-[データベース]画面で接続データベースの設定をします。
3. 同画面でシステムDB構築ボタンを押して intra-mart が使用するDBを構築します。

n sample データの登録

1. intra-mart へログイン
2. メニューの[サンプル]-[サンプル用データ]画面で画面上段の登録ボタンを押し、サンプルアプリケーション用の表領域を作成します。
3. 同画面の下段の登録ボタンを押し、サンプルデータを投入します。

**詳細は、InformationServer がインストールされたディレクトリ/sample/data の下にある
ファイル「sampledata.txt」をご覧ください。**

注意

サンプルデータは、データが何も無い状態でいれて下さい

(インストール直後、またはログイングループ作成直後)。

運用を開始した後にサンプルデータをいれますと、データが
壊れてしまう可能性があります。

運用を開始した後にサンプルデータをいれる場合は、サンプル用に
新たなログイングループを作成する、または、別な環境にベースモジュール
をインストールして、そこにサンプルデータを入れて下さい。

10 ベースモジュール ver2.1.x の ver2.2 へのデータ移行について

intra-mart ベースモジュール ver2.2 (以下 BMV2.2) は、他の intra-mart プロダクト(ベースモジュール ver1.x、ver2.1.x 及び該当のベースモジュール上で動作する intra - mart アプリケーション)とは基本構成が異なるため、同一環境での共存ができません。

ベースモジュール ver2.1.x (以下 BMV2.1.x) をお使いのユーザは、以下の方法により、システム関連情報を移行していくことができます。

< ver2.1.x からの移行について >

インストール注意事項

同一マシンをご使用の場合、以下の点に注意しインストール作業を行ってください。

- ・ 他の intra-mart プロダクトが使用しているディレクトリにインストールを行わないでください。
(新規ディレクトリにインストールを行ってください。)

同一 DB をご使用の場合、以下の点に注意しインストール作業を行ってください。

- 1 他 の intra-mart プロダクトが使用している DB スキーマ(ユーザ)を使用しないでください。

(新規に DB ユーザを作成してください。)

移行先の BMV2.2 は、インストール直後の状態でなければなりません。サンプルデータ等が入っている場合、移行できません。

注) 上記の条件を必ず守ってインストールしてください。上記 いずれかを怠った場合は、動作に不具合が生じ、双方再インストールをしなければ解消されません。また、DB のデータについても矛盾やロストが発生する可能性があります。

< 手法 >

BMV2.1.x から BMV2.2 にリビジョンアップする際、以下の手順で InformationServer 上のデータ(ロール、ページ、ユーザ、リンク、メッセージ、マルチデータベース、ログイングループ)を移行することができます。

以下、ユーザデータの移行を例に解説します。その他の、ロール、ページ、リンク、メッセージ、マルチデータベース、ログイングループのデータについても同様の手順で移行できます。

(注1) ユーザ、ページ、リンクを移行する前に必ずロールを先に移行して下さい。 その他のデータは順不同でかまいません。

(注2) InformationServer 上へユーザ情報等の大量データインポートには多くのシステムリソースを消費します。一回のインポートは約 5000 件程度に分割してインポートすることをお勧めします。(インポート処理には数分～数十分かかる場合があります。)

ユーザ 5000 人につき、JAVA の起動メモリ-Xms に約 64 MB、-Xmx に約 96 MB が必要で

す。

例) ユーザ 5000 人を扱う。

```
java -Xms64m -Xmx96m -cp imart.jar imartInfSrv
```

```
java -Xms64m -Xmx96m -cp imart.jar imart.AppSrv
```

(BM V2.1からはJAVAの起動メモリは imart.ini ファイルで設定します。)

1. BM V2.1.x にログインします。
2. メニューの[システム設定]から[ユーザ]を選びます。
3. 左上フレームのログインアカウントから検索して、左下フレームのログインアカウントのインポートエクスポートボタンを押します。(ユーザ以外の画面では、上フレームの新規登録ボタンを押すと、下フレームにインポートエクスポート画面が表示されます。)
4. 右フレームの**データエクスポート**(V2.0.x 互換フォーマットではない)の出力ファイル名テキストフィールドに、データを出力するファイル名を指定し、データファイルの出力ボタンを押します。
5. 指定したファイルにデータが出力されていることを確認します。
データの形式については、InformationServer ルート/system/config/data/format_readme.txt を参照して下さい。
6. BM V2.2 にログインします。
7. メニューの[システム設定]から[ユーザ]を選びます。
8. 左上フレームのログインアカウントから検索して、左下フレームのログインアカウントのインポートエクスポートボタンを押します。(ユーザ以外の画面では、上フレームの新規登録ボタンを押すと、下フレームにインポートエクスポート画面が表示されます。)
9. 右フレームの**データインポート**の入力ファイル名テキストフィールドに、4. で指定したファイル名を指定し、データファイルの入力ボタンを押します。(ログイングループのみ、データインポート(V2.1.x フォーマット)を利用します。)

< データベースの移行 >

(注) 上記の手順で、InformationServer 上のデータが移行されていることが前提です。

1. 必ず、BM V2.1 と BM V2.2 は異なるDBアカウントを使用して作業してください。RDBMSのツールなどを使用してBM V2.2 用のDBアカウントを作成します。
2. BM V2.1 で使用していた DB のデータを全てBM V2.2 のDBアカウント環境に移します。その際、移行方法については各RDBのデータ移行の手順に従いますので、RDBMSのマニュアルを参考にしてください。
3. BM V2.2 にログインします。
4. メニューの[システム設定]から[データベース]を選びます。
5. BM V2.2 で使用するDB アカウントへの接続設定を行い、登録ボタンを押します。

6. 成功したならば、同画面の接続ボタンを押し、データベースへ接続します。
7. [システム設定]の[データベース]の「SQL ファイルインポート」のテキストフィールドに basemodule/data/v21_v22.sql というファイル名を入力して「sql ファイル取り込み」ボタンを押します。すると b_m_grouping というテーブルがドロップされ、B M V 2.2 用の b_m_grouping,b_m_portal,b_m_portal_page というテーブルが新規作成されます。その際、FK(外部キー)の設定などを行っている場合には、外してください。データの消去がうまく行かない場合があります。
8. メニューの[システム設定]から[マルチデータベース]を選びます。
9. 新規登録でB M V 2.1 . x で使用していたDBアカウントへの接続設定を行い、登録ボタンを押します。
10. 成功したならば、同画面の接続ボタンを押し、データベースへ接続します。

(以上で、データ移行のための準備は整いましたので、次で実際にデータを移行します)

11. メニューの[UNIT]から[グルーピングマスタ移行]を選びます。
12. グルーピングマスタデータの移行の項の「Ver2.1 :」の欄のコンボボックスに現在[データベース]設定と[マルチデータベース]設定と[マルチグループ]設定で設定されている接続名称の一覧が表示されています。その中から、9. で設定したB M V 2.1 . x で使用している接続名称を選択して下さい。
13. 同様に、「Ver2.2 :」の欄のコンボボックスからB M V 2.2 で使用している接続名称([データベース]設定から設定した場合は「DEFAULT」)を選択して下さい。
14. グルーピングタイプの優先度の項のリストボックスで、Ver2.1 の属性(attribute)から grouping_type にデータを移行する際の優先度を設定します。詳しくは、画面上の説明と例を参考にしてください。
15. 以上の設定が終了したら、「データ移行」というボタンを押して下さい。グルーピングマスタデータの移行が開始されます。多少時間がかかりますが(データ量によります)、そのままお待ち下さい。また、データ移行中にDBに対して新規のデータを登録したり更新したりしないで下さい。
16. データ移行が終了すると、「成功しました」というメッセージが画面に表示されます。

グルーピングマスタデータの移行中にデータに何らかの不整合がある場合や、データベース接続に問題があった場合にはエラーログに出力されます。なにか、問題が発生した場合には unit/grouping_convertv22/conver_error.log を参考にしてください。

(制限事項)

1.Ver2.1 の b_m_grouping の属性(attribute)にデータが設定されていなかった場合には、Ver2.2 の b_m_grouping の grouping_type には null がセットされます。

11 アンインストール

11.1 コマンドプロンプトで動作させている場合

起動している場合は、Ctrl + C キーで停止させます。

Web サーバから、WebConnector の登録情報を削除します。

インストールしたフォルダ(% web_path%、% im_path%)を削除します。

11.2 サービスとして動作させている場合

起動している場合は、intra-mart ServiceManager から停止させます。

intra-mart ServiceManager から 各サーバをサービスから削除します。

Web サーバから、WebConnector の登録情報を削除します。

インストールしたフォルダ(% web_path%、% im_path%)を削除します。

12 付録 A intra-mart システム管理シート

intra-mart システム管理シート

* 既に記述されている欄は該当のものに丸をおつけください。

Web サーバ	Web サーバ	IIS 、 iPlanet 、 Apache
	バージョン	
	ホスト名 (FQDN)	
	利用形態	CGI 、 Servlet
Java VM (JRE)	バージョン	
データベース	種別	ORACLE 、 MS-SQLServer 、 IBM DB2
	データベースバージョン	
	ネットワークデータベース名	
	最大接続数	
	接続形態	ネイティブ (JDBC THIN 接続) 、 JDBC - ODBC
	上記接続ドライババージョン	
SMTP サーバ	ホスト名 (FQDN)	
intra-mart	管理ユーザ I D	master
	管理ユーザパスワード	master
	intra-mart アプリケーション名	
	intra-mart バージョン	
WWW サーバ マシンスペック	CPU クラスおよび数量	
	メモリ	
	ハードディスク	
intra-mart サーバ マシンスペック (WWW サーバと同 一マシンの場合は未記 入)	CPU クラスおよび数量	
	メモリ	
	ハードディスク	
DB サーバ マシンスペック (WWW サーバと同 一マシンの場合は未記 入)	CPU クラスおよび数量	
	メモリ	

	ハードディスク	
クライアントPC	機種（おおまかに）	
	搭載ブラウザ	Netscape Navigator、Internet Explorer
	搭載ブラウザバージョン	

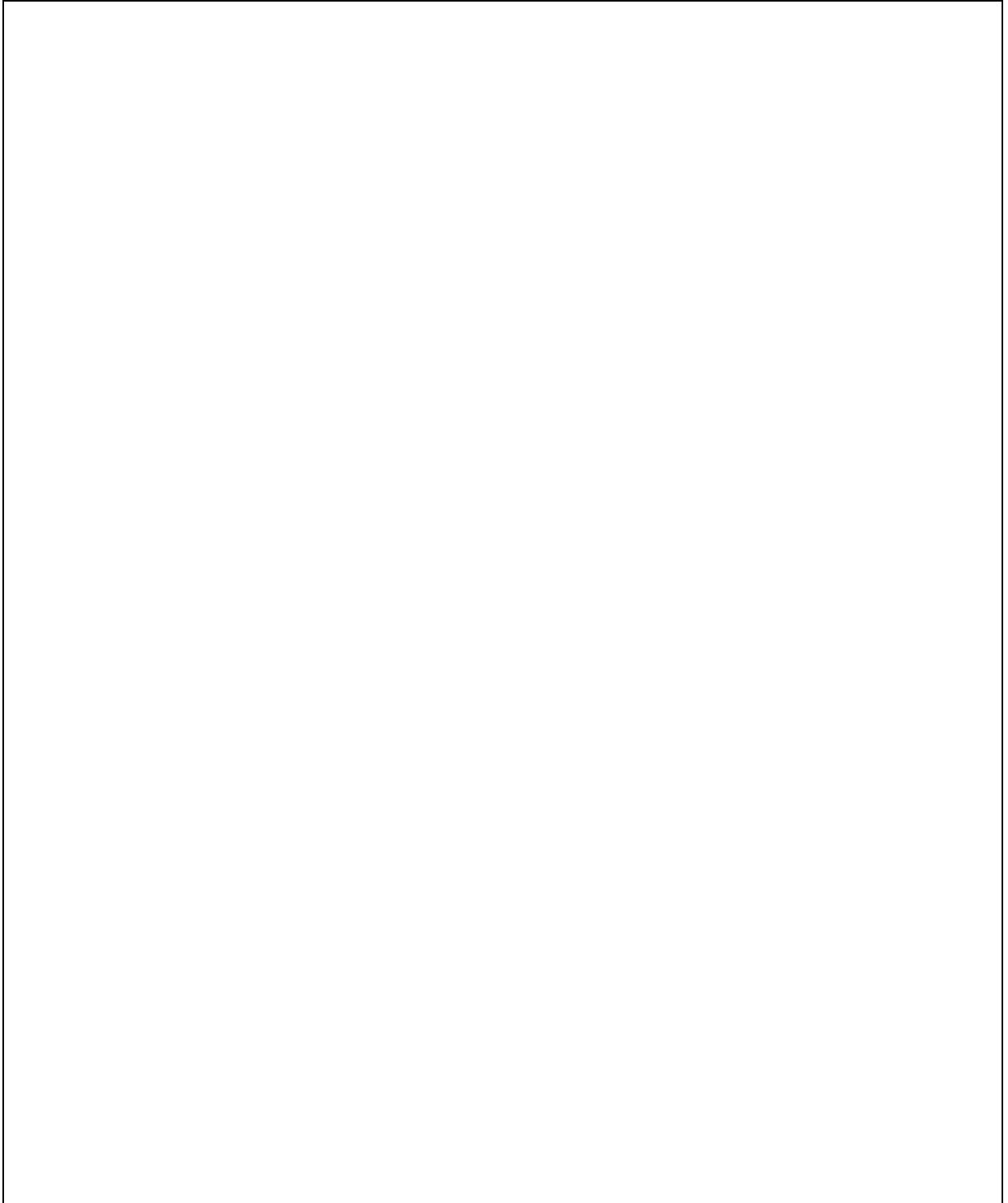
バージョンについては、細かなリビジョン番号まで記載ください。

パスワードは記入しないで忘れないようにしておくか、記入した場合は、このシートを厳重に管理してください。

* 運用するサーバ構成図を記入してください。

* WebConnecoter, AppServer, InfoServer, FileServer, BatchServer をどこにインストールしているか記入してください。

* 差し支えなければ、各サーバの IP アドレス および 各サーバモジュールが利用している通信ポート番号を記入してください。



13 付録 B インストールトラブルシューティング

<p>インストーラの表示が文字化けする。 (??? になる。)</p>	<p>Javaランタイムが国際版であることを確認して下さい。 英語版は使用できません。</p>
<p>インストール直後のApplication Server起動時に、コマンドプロンプトにエラーが表示される。</p>	<p>設定ファイル imart.ini の項番[1]、SYSTEM_SERVER_CHARSET の設定が正しく設定されているか確認して下さい。</p>
<p>ApplicationServer, InfomationServer, FileServer, BatchServerが起動できない。</p>	<p>Javaランタイムは正しくインストールされていますか？ コマンドプロンプトで「java -version」というコマンドを発行し、バージョン番号が出力されることを確認して下さい。</p> <p>クラスパスは正しく設定されていますか？ 起動コマンド <code>java -cp <i>classpath</i> imart.AppSrv</code> <i>classpath</i> に各サーバがインストールされているフォルダの <code>imart.jar</code> ファイルが指定されているか確認して下さい。 JDBC ドライバ等をパスに含めるとき、パスの区切りはWindows では ; (セミコロン)、Solaris、Linux では : (コロン) です。</p> <p>intra-mart の初期化ファイルの設定は正しいですか？ intra-mart ベースモジュールのインストール先に保存されている imart.ini ファイルの設定を確認してください。設定の詳細はインストールガイドを参照してください。</p>
<p>ApplicationServerが起動できない。メッセージ「connect error.」がコマンドプロンプトに出力される、またはログに「Server is not start.」が出力される。 intra-mart のログイン画面が表示されない。</p>	<p>起動コマンドは正しいですか？ imart.AppSrv、imart.InfSrv、imart.PrpSrv、imart.BatSrv、大文字小文字を区別します。</p> <p>File Server または InfomationServer がダウンしています。起動して下さい。</p> <p>全てのServerを同一プロセスで起動させようとしている場合は、初期設定ファイル「imart.ini」の項目[5]、SYSTEM_NETWORK_SERVER の設定がOFFになっていることを確認して下さい。</p>
<p>intra-mart にログインできない。</p>	<p>ブラウザで指定しているURL は正しく入力していますか？ Web サーバコネクタに CGI を使用している場合 http://_____/imart/intramart.cgi Web サーバコネクタに Servlet を使用している場合 http://_____/imart/intramart</p> <p>/imart/は Web サーバに登録した文字列(仮想ディレクトリ名)です。 大文字・小文字は厳密に入力してください。 intramart.exe、intramart は全て小文字で記入してください。</p>

	<p>Web サーバコネクタの初期化ファイルの設定は正しいですか？ Web サーバコネクタのインストール先に保存されている conf/imart.conf ファイルの設定を確認してください。設定の詳細はインストールガイドを参照してください。</p> <p>インストール直後、管理者はユーザ名「master」、パスワード「master」でログインしてください。ログイン後にパスワードを変更できます。</p> <p>ユーザ名とパスワードは正しく入力していますか？ 大文字・小文字も区別されますので、厳密に入力してください。</p> <p>ブラウザの設定で cookie を許可していますか？ intra-mart のアプリケーションは cookie 技術を利用しています。ブラウザの設定で cookie を受け付けるようにしてください。</p> <p>ブラウザの設定で JavaScript を許可していますか？ intra-mart のアプリケーションはクライアント側の JavaScript を利用しています。ブラウザの設定で JavaScript の使用を許可してください。</p> <p>ユーザライセンスの設定がされていますか。詳しくはマニュアルを参照ください。</p>
<p>ブラウザの表示が文字化けする。 CSJS エラーがでる。</p>	<p>intra-mart の各サーバの設定ファイル imart.ini の項番[1]、SYSTEM_SERVER_CHARSET の設定が正しく設定されているか確認して下さい。</p> <p>ApplicationServerの設定ファイル imart.ini の項番[12]、SYSTEM_CLIENT_CHARSET の設定を、Web コネクタをインストールした文字コードと同じにして下さい。</p> <p>Web コネクタを EUC でインストールした場合、SYSTEM_CLIENT_CHARSET=EUCJIS として下さい。</p> <p>ブラウザの文字コードの設定を変えて見て下さい。</p>
<p>データベースに接続できない。</p>	<p>データベースの設定は正しいですか？ データベース付属のツール等を使って、データベースへアクセスできるか確認してください。</p> <p>データベースへの最大接続数に達していませんか？ 既にアクセスしているユーザが多過ぎて、データベースへの最大接続数を満たしていないか確認してください。</p> <p>intra-mart のデータベース設定は正しいですか？ intra-mart ベースモジュールのメニュー[システム設定] [データベース]画面で接続情報を確認して下さい。</p>

	<p>エラーログは出ていますか？</p> <p>Application Serverのインストールデフォルダの log/imart_database.log にエラーメッセージが出力されているか確認して下さい。</p> <p>「oracle.jdbc.driver.OracleDriver (oracle.jdbc.driver.OracleDriver)」と出ている場合</p> <p>JDBC のクラスパスが正しく設定されていません。</p> <p>「The Network Adapter could not establish the connection」と出ている場合</p> <p>Oracle のリスナーが起動していない可能性があります。</p> <p>Oracle のネットワークに問題がある可能性があります。</p> <p>JDBC のクラスパスが正しく設定されていません。</p>
<p>Internet Explorer での動作がおかしい</p>	<p>オプション指定で「HTTP1.1 を使用」オプションがチェックされていると正しく動作しません。チェックをはずしてください。</p> <p>「ツール」「インターネットオプション」「インターネット一時ファイルの設定」「保存しているページの新しいバージョンの確認」を「ページを表示するごとに確認する」にチェックしてください。</p> <p>画面共通モジュールのうち、印刷モジュールは正しく動作しません。</p>
<p>Netscape Navigator での動作がおかしい</p>	<p>「編集」「設定」「詳細」「キャッシュ」「キャッシュしたドキュメントとネットワーク上のドキュメントの比較」を「毎回」にチェックしてください。</p>
<p>NT サービスが起動時にエラーになる。</p>	<p>Java ランタイムのバージョンを確認して下さい。</p> <p>Java ランタイムをインストールした後に Oracle をインストールすると、先にインストールした Java ランタイムのバージョンが上書きされてしまう場合があります。Java ランタイムを一旦アンインストールして、再度インストールしてください。</p> <p>具体的なレジストリの場所は[HKEY_LOCAL_MACHINE]-[SOFTWARE]-[JavaSoft]-[Java Development Kit]です。この、「CurrentVersion」が「1.2」以上になっていることを確認して下さい。</p>